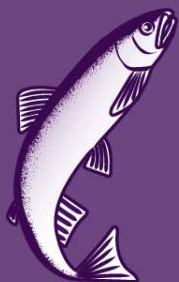


天下一五ヶ瀬かわまちアクションプラン



平成 26 年 9 月

天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会



天下一五ヶ瀬かわまちアクションプラン 目次

はじめに	1
1. 「五ヶ瀬川かわまちづくり」の取り組み	2
1.1 「五ヶ瀬川かわまちづくり」の目的	2
1.2 「五ヶ瀬川かわまちづくり」の検討経緯	3
1.3 「五ヶ瀬川かわまちづくり」の対象拠点	6
2. アクションプランの策定	7
2.1 アクションプランの位置づけ	7
3. アクションプラン	8
3.1 アクションプラン策定の経緯	8
3.2 アクションプランの内容	9
3.2.1 回遊できる散策路	10
(1) マラソン大会の復活	12
(2) 壘堤周辺整備と「壘堤かわまち灯り」の継続	17
(3) 河川敷を活用した散策利用	20
3.2.2 文化・自然活動ゾーン	24
(4) 五ヶ瀬川を活用した観光振興（延岡花物語～このはなウォーク～）	26
(5) ふるさとの川、五ヶ瀬川の魅力再発見（リバーフェスタのべおか）	29
(6) 年間を通した日常利用	33
3.2.3 自然の恵み体験拠点	37
(7) 「鮎やな」を中心とした観光振興	39
(8) 年間を通した日常利用	41
(9) カヌーツーリングを中心としたまちなかツアー	44
4. アクションプランの実現に向けて	48
天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会委員名簿	49

はじめに

延岡市は、市街地の中心部を五ヶ瀬川、大瀬川が貫流し、五ヶ瀬川に合流する祝子川、北川など幾筋もの川が流れる街並みは「水郷のべおか」と称されています。

「清流五ヶ瀬川」の名にふさわしく、平成 23 年以降は全国でも高水準の水質を保っており、また、自然豊かで貴重なオープンスペースである河川敷においては多くの市民が遊歩道の散策や余暇活動の場として利活用しており、「五ヶ瀬川」を活かした市民の利活用ニーズの高い地域と言えます。

古くから「鮎やな漁」が行われ、近年では「五ヶ瀬川イカダ下り大会、リバーフェスタのべおか、花火大会」などのイベントが開催されており、貴重な歴史的治水施設である「豊堤」も残っているなど、延岡市は多くの河川空間・素晴らしい水環境と共存しています。

今後、東九州自動車道の全線開通に伴って観光・流通などの活性化が期待されていますが、その活性化対策の一つとして、歴史ある延岡・五ヶ瀬川を外部に PR できる魅力・資源と連携したまちづくり・かわづくりが求められているところです。

このような背景のもと、地域住民や延岡市、五ヶ瀬川の管理者である国土交通省等で組織した「五ヶ瀬川かわまちづくり検討会」を設立し、延岡市の「まちづくり」と五ヶ瀬川の「かわづくり」が一体となり、五ヶ瀬川を軸とした地域の活性化や地域交流の促進、河川空間利用者の安全性の向上など、様々な議論を行い、平成 25 年 1 月に「五ヶ瀬川かわまちづくり計画書」を策定しました。

その後、実践組織として「天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会」を設立し、「五ヶ瀬川かわまちづくり計画書」を実践するため、整備・利用・管理の方策について具体的な議論を積み重ねてきました。

「天下一五ヶ瀬かわまちアクションプラン」は、地域の重要な資源である五ヶ瀬川の河川空間を活かした“かわまちづくり”を考え、全国に誇れる天下一の川づくり・まちづくりを目指し、地域の自立的・持続的な活性化に貢献することを目的に、具体的に実践していくための手順や解決すべき課題等を取りまとめたものです。

今後も参画していただける方を広く募りながら、「天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会」は、“具体的な活動”を“継続的に実践”していきます。

平成 26 年 9 月 24 日
天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会

1. 「五ヶ瀬川かわまちづくり」の取り組み

1.1 「五ヶ瀬川かわまちづくり」の目的

延岡市は、市街地の中心部を五ヶ瀬川、大瀬川が貫流し、五ヶ瀬川に合流する祝子川、北川など幾筋もの川が流れる街並みは「水郷のべおか」と称されています。

五ヶ瀬川と大瀬川に囲まれた川中地区には、300年以上もの歴史を誇る「鮎やな」をはじめ、貴重な治水施設である「豊堤」が現存しており、水害被害の防止を願った「水神様」が各所に奉られているなど、川にまつわる貴重な歴史資源が数多く点在しています。

かつては水遊びや鮎やなをはじめとした漁業・川舟など、様々な場面で人々の生活に密着した存在であった五ヶ瀬川も、近年は生活様式の変化・交通網の発達などにより川と人とのつながりが薄れ、五ヶ瀬川の魅力が十分に発揮されていない状況にあります。加えて、川中地区を周回する散策路は、現時点ではスムーズに散策できない箇所があったり、高水敷には高茎草本が繁茂し散策時の視界を妨げていたり、安全な水際へのアクセスが難しくなっており、人々が五ヶ瀬川を利用しにくくなっている状況です。

また、「鮎やな」はかつて3箇所も架けられ、観光の柱となっていました。現在は、大瀬大橋下流に架けられる1箇所のみとなり、存続が危ぶまれている状況です。

加えて、そのような状況においても、延岡市では「アスリートタウンのべおか・スポーツ振興計画」「延岡市観光振興ビジョン」等の関連事業において、五ヶ瀬川の散策路を活かしたスポーツ振興や鮎やなの存続、観光振興への取り組みを進めてきました。

さらに、地域住民からも、延岡アースデイによる河川美化活動のほか、積極的な利活用として五ヶ瀬川イカダ下り大会、リバーフェスタのべおかなどが開催され、川と人とのつながりを取り戻そうとする機運が高まっています。

それを後押しするように、東九州自動車道の全面開通による観光・流通などの活性化が大いに期待され、歴史ある延岡・五ヶ瀬川を外部にPRできる魅力・資源と連携したまちづくり・かわづくりが求められているところです。

このような背景のもと、五ヶ瀬川の「かわまちづくり計画」は、延岡市、関係機関、地域住民等との緊密な連携を図り、より地域に役立つような五ヶ瀬川らしさを活かしたまちづくりを推進していくことを目的とするもので、延岡市のまちづくりと五ヶ瀬川のかわづくりが一体となった「かわまちづくり」として、具体的に整備や利活用・維持管理を計画・実践していくことによって、地域の自立的・持続的な活性化及び治水上・河川利用上の安全性向上に貢献することに取り組んでいくものです。

1.2 「五ヶ瀬川かわまちづくり」の検討経緯

平成 24 年 10 月に地域住民、学識者、延岡市、宮崎県、国土交通省の連携のもと、「五ヶ瀬川かわまちづくり検討会」が設立され、延岡市のまちづくりと五ヶ瀬川のかわづくりが一体となった「五ヶ瀬川かわまちづくり計画書」を策定し、平成 25 年 3 月に「かわまちづくり支援制度」に申請登録されました。

平成 25 年 5 月には五ヶ瀬川かわまちづくりの実践組織となる「天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会」を設立し、イベントへの参画・協力等の実践活動を行いながら、より具体的な整備・利活用・維持管理等の取り組みを検討し、本資料である「アクションプラン」としてとりまとめを行ったものです。

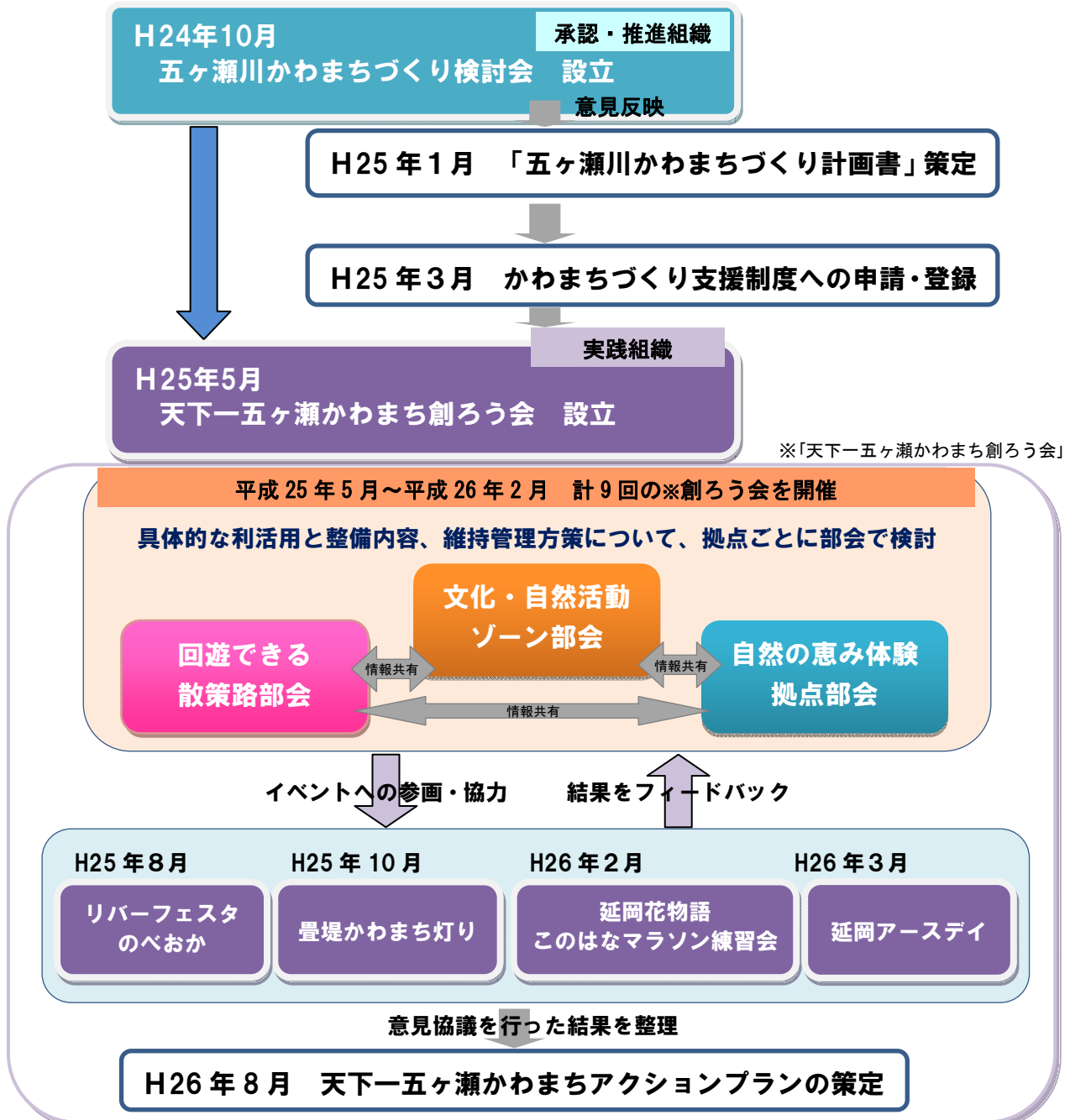


図 1 「五ヶ瀬川かわまちづくり」の検討経緯

表 1 天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会 平成 25 年度の活動記録

回	時期	内容
第1回創ろう会 (検討会と合同開催)	平成 25 年 5 月 24 日	・創ろう会の役割について検討 ・本年度のスケジュール確認
第2回創ろう会	平成 25 年 6 月 29 日	・創ろう会のキックオフ ・今年度の活動の方向性を決定
第3回創ろう会	平成 25 年 7 月 20 日	・部会の立ち上げ ・委員構成の決定
既存イベントへの参画	平成 25 年 8 月 2 日	・リバーフェスタのべおかの準備協力(草刈り清掃等)
既存イベントへの参画	平成 25 年 8 月 4 日	・リバーフェスタのべおかへの参画
第4回創ろう会	平成 25 年 8 月 8 日	・リバーフェスタのべおか参画の振り返り ・利活用の希望・アイデアの整理 ・実現のための必要事項の抽出
第5回創ろう会	平成 25 年 9 月 18 日	・利活用メニューの優先順位付け ・利活用実現のための方策の検討
新規イベントへの参画	平成 25 年 10 月 27 日	・ <u>昼堤かわまち灯りの準備協力(草刈り清掃等)</u>
第6回創ろう会	平成 25 年 11 月 13 日	・利活用に必要な整備・維持管理 ・実践する利活用の内容・時期等の整理
第7回創ろう会	平成 25 年 12 月 18 日	・アクションプランの検討 ・日常利用・維持管理について
第8回創ろう会	平成 26 年 1 月 29 日	・アクションプランの詳細検討 ・日常利用・維持管理について
既存イベントへの参画	平成 26 年 2 月 14～16 日 平成 26 年 2 月 23 日	・ <u>延岡花物語への参画</u> ・ <u>このはなマラソン練習会への参画</u>
第9回創ろう会	平成 26 年 2 月 26 日	・アクションプランの決定 ・来年度の活動内容の確認
既存イベントへの参画	平成 26 年 3 月 16 日	・ <u>延岡アースデイへの参画</u>

創ろう会→天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会



合同検討会(H25.5/24)



合同検討会での現地視察(H25.5/24)



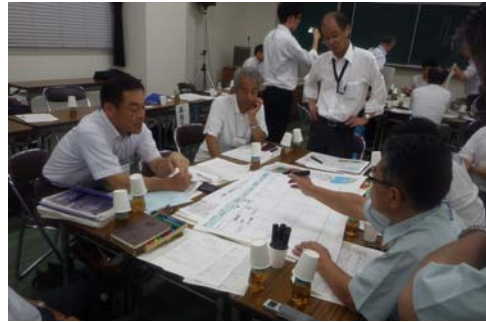
部会毎の現地状況の確認(回遊できる散策路)(H25.7/20)



部会毎の現地状況の確認(自然の恵み体験拠点)(H25.7/20)



創ろう会での協議(回遊できる散策路部会)



創ろう会での協議(文化・自然活動ゾーン部会)



創ろう会での協議結果の発表(文化・自然活動ゾーン部会)



創ろう会での協議結果の発表(自然の恵み体験拠点部会)



リバーフェスタのべおかの準備協力(H25.8/2)



リバーフェスタのべおか当日の参画(H25.8/4)



畳堤かわまち灯りの準備協力(H25.10/27)



畳堤かわまち灯りの準備協力(H25.10/27)



延岡花物語当日の参画(H26.2/14~16)



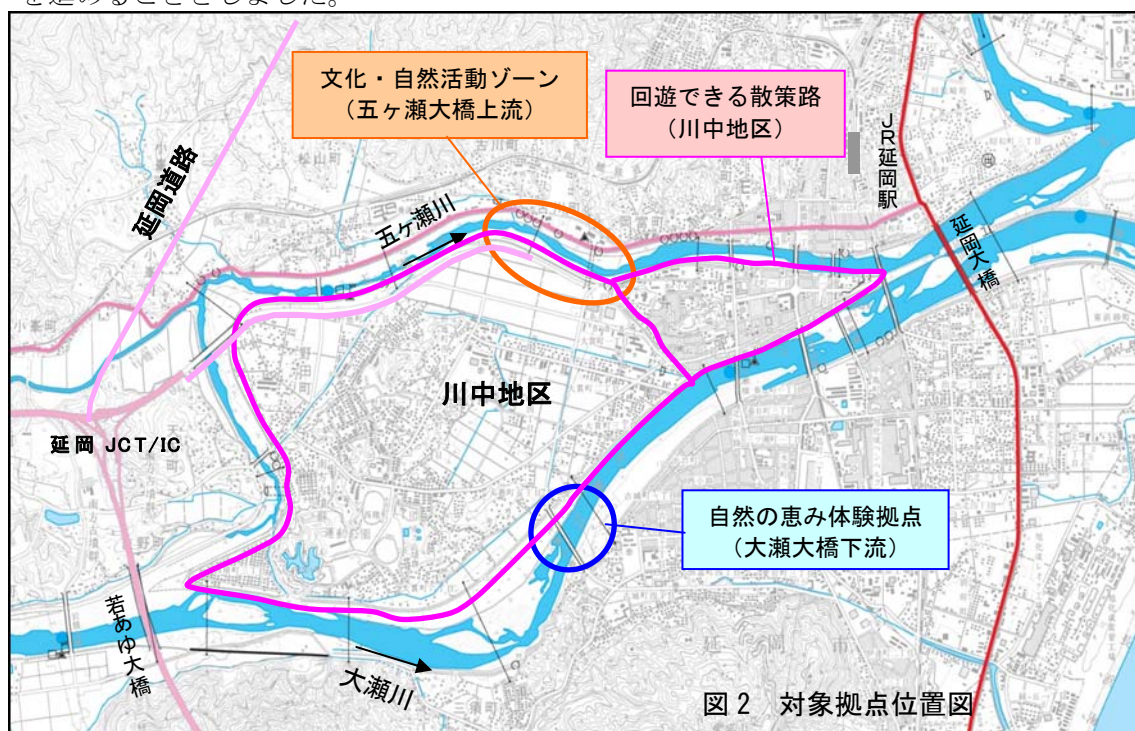
延岡アースデイへの参画(H26.3/16)

1.3 「五ヶ瀬川かわまちづくり」の対象拠点

「五ヶ瀬川かわまちづくり」では、平成24年度の「五ヶ瀬川かわまちづくり検討会」の協議の中で、「延岡の街の魅力と五ヶ瀬川の魅力」をつなぐことを目的に、かわまちづくりの対象拠点として

- 川中地区を一周する「回遊できる散策路」
- 五ヶ瀬川大橋上流付近の「文化・自然活動ゾーン」
- 大瀬大橋下流付近の「自然の恵み体験拠点」

の3つのゾーンを設定し、各拠点の特性を踏まえたゾーンコンセプトに基づいて取り組みを進めることとしました。



《各拠点のコンセプト》

(1) 回遊できる散策路（川中地区）

- ・地域住民が自然豊かな清流五ヶ瀬川の魅力を感じられるとともに、日常の中で川にふれあえる文化を育みます。
- ・そのために、川沿いを散策することで自然（季節）と歴史・文化を感じることができる周遊可能なコースを整備します。

(2) 文化・自然活動ゾーン（五ヶ瀬大橋上流）

- ・自然環境の保全を図りつつ、地域のまつり・イベントの拠点にもなりうる水辺空間を創出し、地域全体の活性化を図ります。
- ・今後はリバーフェスタをはじめ、城山公園を中心とした城下町のべおかの各種イベントが開催できうる場所として、利活用・整備・維持管理体制を整備します。

(3) 自然の恵み体験拠点（大瀬大橋下流）

- ・歴史ある延岡・五ヶ瀬川を外部にPRできる魅力・資源との連携により観光客を呼び込むことで、地域全体の活性化を図ります。
- ・流域の豊かな自然環境を活かし、自然の恵みを味わう拠点、自然体験の活動拠点としての活用を図ります。

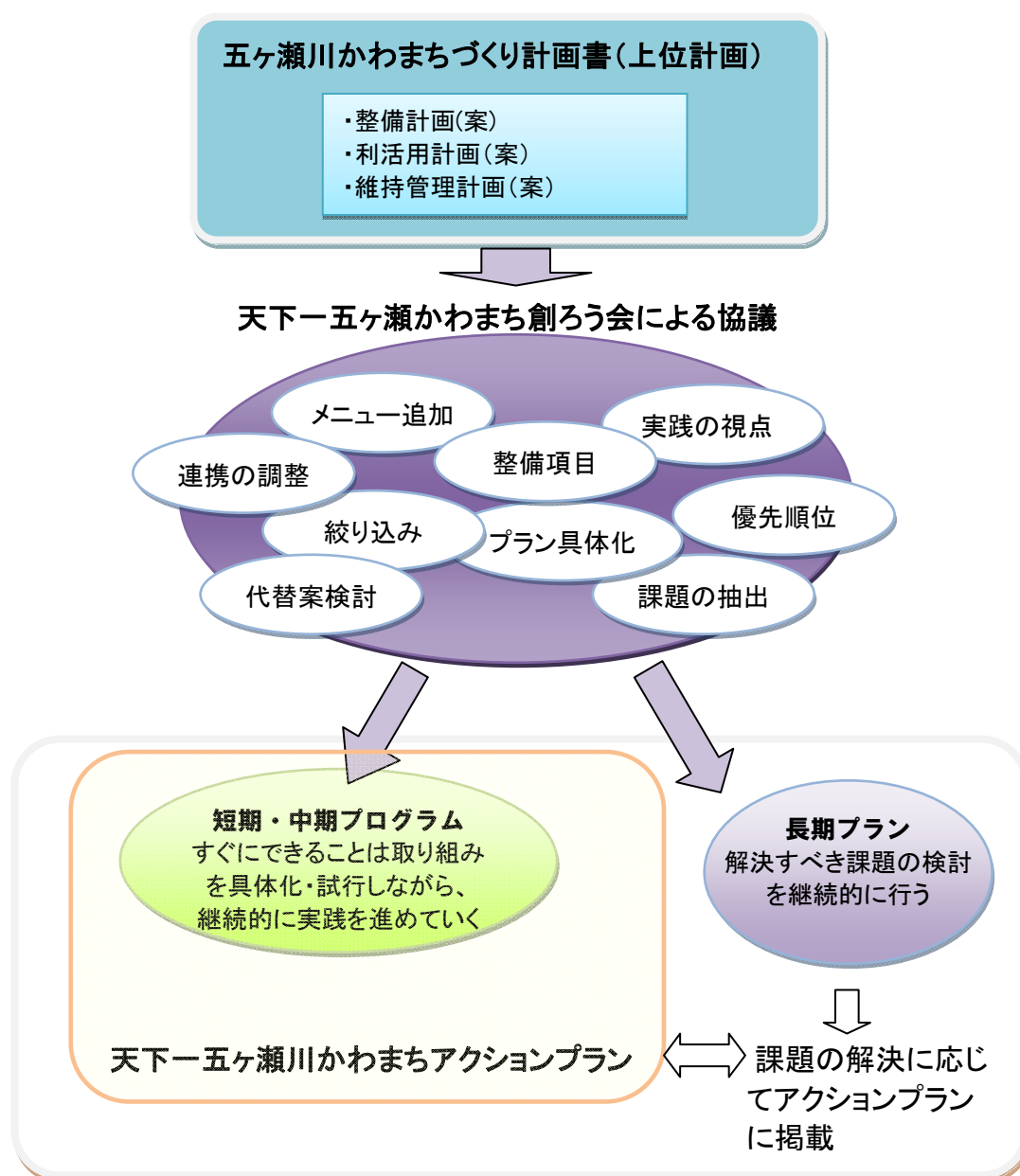
2. アクションプランの策定

2.1 アクションプランの位置づけ

天下一五ヶ瀬かわまちアクションプランは、上位計画である「五ヶ瀬川かわまちづくり計画書」（以下「計画書」）を踏まえ、「水郷のべおか」の歴史・文化を継承し、地域住民の河川利用の増加（楽しみの増加）を促進するために「天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会」で協議された種々のプログラムの中で、整備も含めて実践可能なプログラムの行動計画をできるだけ具体的に整理したものです。

メンバーが持ち寄ったアイデアを集約して、すぐにできることは「短期・中期プログラム」と位置付け、取り組み内容を具体化したアクションプランとして整理しました。

解決すべき課題が残され、すぐには実践出来そうもないプログラムについては、「長期プログラム」と位置付けて、今後も継続的に課題等の解決を協議していきます。



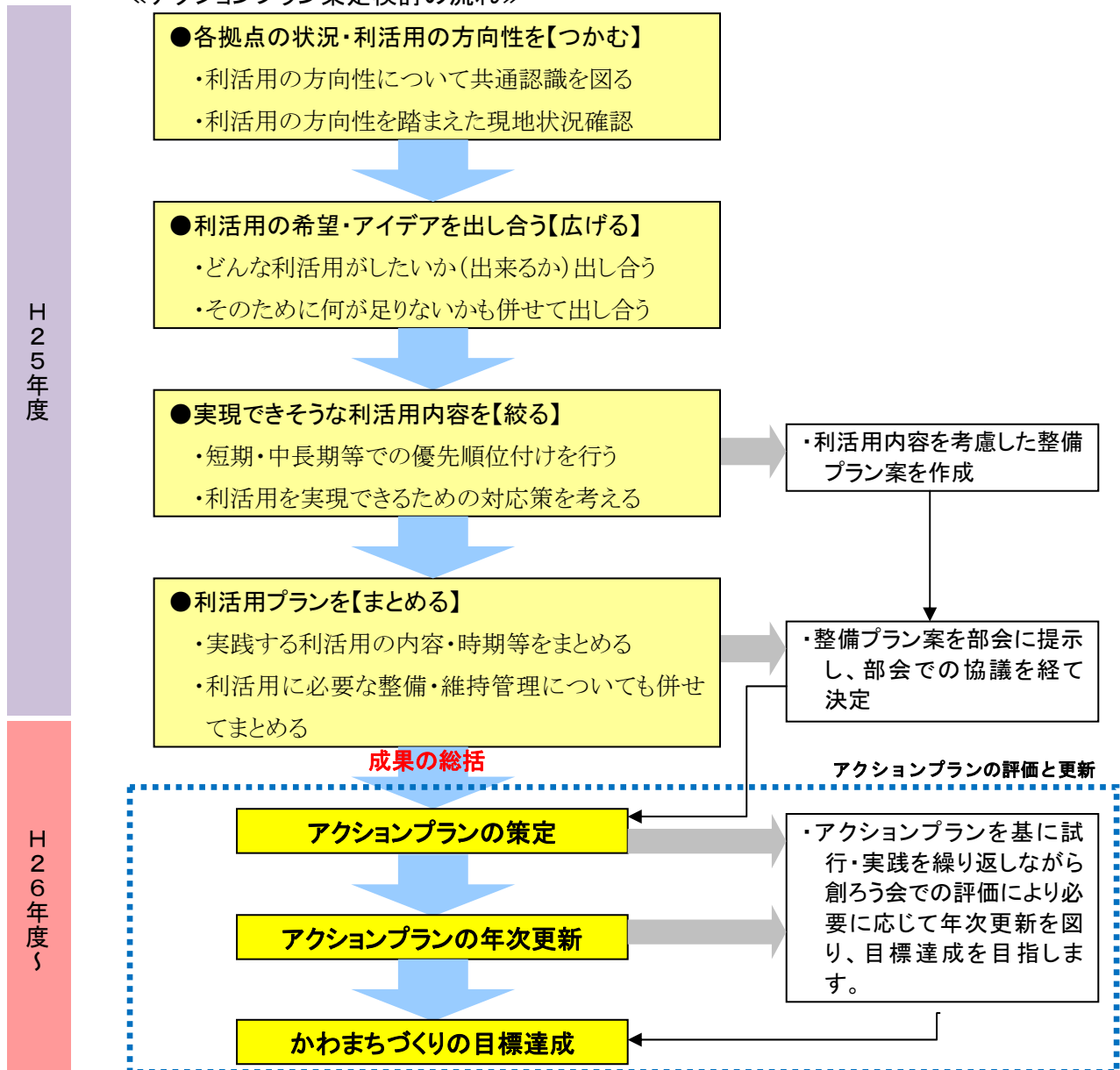
3. アクションプラン

3.1 アクションプランの策定

利活用及び維持管理を検討するにあたり、上位計画の計画書内容及び拠点の現地視察を踏まえ、各拠点でどのような利活用をしたいか、まずは、メンバー個々に自由に意見出し（ブレインストーミング）を行い、拠点ごとにそれらの意見を整理し、新たな利活用の促進検討に加え、同時に既存のイベントの継続開催や他の開催場所からの移動も視野に入れ、必要な整備と利活用・維持管理計画の検討を行い、結果をアクションプランとしてとりまとめたものです。

今後は、このアクションプランに基づき、取り組みの実践と評価を図りながら、五ヶ瀬川かわまちづくりの目標である「水郷のべおか」の歴史・文化を継承し、地域の活性化、観光振興を図り、地域住民の河川利用の増加（楽しみの増加）を促進することを目指します。

《アクションプラン策定検討の流れ》



3.2 アクションプランの内容

「天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会」の協議により、今後の川中地区のかわまちづくりの推進計画として、以下のプログラムを決定しました。

この中で、実践可能な取り組みについては、「天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会」のアクションプランとして具体的な行動計画を以下に整理し、課題等が残される長期のプログラムについては、課題に対する検討を重ね、取り組みの具体化に応じてアクションプランにその内容を反映させていくものとします。

表 2 アクションプランのプログラムの一覧

アクションプラン	短		中期		長期	
	26	27	28	29	30	
回遊できる散策路（川中地区）						
(1) マラソン大会の復活	●→		●→		●→	
	(上流コース)		(散策路全域)			
(2) 壘堤周辺整備と「壘堤かわまち灯り」の継続	●→					
(3) 河川敷を活用した散策利用 ・ジョギング、ウォーキング、リハビリなど、健康のための日常利用					●→	
文化・自然活動ゾーン（五ヶ瀬川大橋上流）						
(4) 五ヶ瀬川を活用した観光振興（延岡花物語～このはなウォーク～）	□→					
(5) ふるさとの川、五ヶ瀬川の魅力再発見（リバーフェスタのべおか） ・子どもが安全に遊べる日常的な水辺利用等	●→		□→			
(6) 年間を通した日常利用 ・ワンド※(1)での環境学習・バードウォッチング等の自然観察	●→		●→			
自然の恵み体験拠点（大瀬大橋下流）						
(7) 「鮎やな」を中心とした観光振興	□→					
(8) 年間を通した日常利用 ・鮎やな食事棟の年間利用等 ・「花」を題材とした新たな活動	●→		●→			
(9) カヌーツーリングを中心としたまちなかツアー	●→					

●→ : 新たに立ち上げて実践するプログラム □→ : イベント等の既存活動に対する支援プログラム

●→ : 課題の検討を継続的に行い、今後具体化を図っていくプログラム

※1つのプログラムに実践時期が異なる複数の取り組みがある場合は、時期を分けて表示しています。

例) マラソン大会の復活については、上流の可能なコースから随時練習会等を開始し、最終的には散策路全域を使ったハーフマラソン大会の復活を目指すものであるため、時期を分けた表示としています。

※(1)ワンドとは、川の本流とはつながっているが、河川構造物等に囲まれて池のようになっている地形のことです。

3.2.1 回遊できる散策路

回遊できる散策路ゾーンでは、散策路を安全に利用するための整備の進捗と連携を図りながら、かつて散策路を利用して行われていたマラソン大会の開催やそれに向けた練習会の開催、その他のイベント活用や日常的な散策路としての利用を計画するほか、コース沿いに点在する水神様・畳堤・二線堤等の川にちなんだ史跡や街中の史跡を巡るまちなかウォーキング等の実施を図ることによって、スポーツ・健康、文化・歴史を活かした利活用による延岡の街の魅力と五ヶ瀬川の魅力をつなぐ機能を高めることを目指します。

《回遊できる散策路（川中地区）のコンセプト》

川中地区を周回する散策路を利用したスポーツ・健康、文化・歴史を活かした利活用



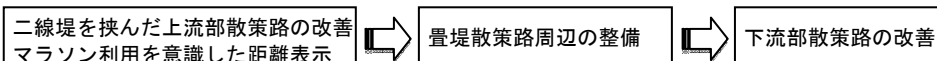
- ・地域住民が自然豊かな清流五ヶ瀬川の魅力を感じられるとともに、日常の中で川にふれあえる文化を育みます。
- ・そのために、川沿いを散策することで自然（季節）と歴史・文化を感じることができる周遊可能なコースを整備します。

《利活用の方向性》

- ・マラソン大会の復活
- ・畳堤周辺の整備と「畳堤かわまち灯り」の継続
- ・河川敷を利用した散策利用
 - ※河川敷を活用した散策利用の検討例
 - ・JR九州ウォーキング ・水神様や牧水の歌碑 ・市内の名所旧跡等巡り 等

《整備の方向性》

- ・川中地区を周回する散策路の利用安全性の向上
- ・安全に川にアクセスするための導線の確保
- ・畳堤散策路周辺の整備



《維持管理の方向性》

- ・練習会やマラソン大会、畳堤かわまち灯り等のイベント開催時には、活動団体を主体に行政や関係団体・ボランティア等の協力により、草刈りや清掃活動の実施に取り組む。
- ・年間を通じた日常的利用等の不特定多数の利用に対しては、定期的な草刈りや清掃活動等の合同実施日を作り、利用者への参加を呼び掛ける。
(例：延岡アースディ等の一斉清掃活動日の設定)

【アクションプランの概要】

(1) マラソン大会の復活

- 回遊できる散策路の整備について、可能な箇所から整備を進める。
- 整備された散策路を使ったマラソン（ジョギング）コースを設定し、スタート地点からの距離がわかるように距離表示を行うとともに、設定したコースについて市民へのPRを行う。
- 整備されたコースでの練習会を開催する一方で、ハーフマラソン大会（かつての若鮎マラソン大会の復活）の開催に向け、大会の主体的運営と支援可能な新たな組織の構築を検討する。
- 練習会開催やマラソン大会の開催に際して、草刈りや清掃などの維持管理活動の協力体制を検討する。



(2) 畳堤周辺整備と「畳堤かわまち灯り」の継続

- 畳堤周辺の散策路整備を進め、今後の畳堤に関する取り組みを考える「畳堤プロジェクト」の立ち上げを行う。
- 平成25年から始まった「畳堤かわまち灯り」の継続開催を支援する。
- 「畳堤かわまち灯り」の際の安全かつ効果的なライトアップ方法の改善について、その対応を支援する。
- 「畳堤かわまち灯り」開催に際しての草刈りや清掃などの維持管理活動の協力体制を検討する。



(3) 河川敷を活用した散策利用

- 「かわ」と「まち」を結ぶための「回遊できる散策路」の整備を進める。
- 市街地部も含めた魅力ある施設を廻るなどの散策コースを設定し、JR九州ウォーキング等との連携による、散策利用者の増加を検討する。
- 歴史解説や散策コースの案内について、ボランティア協会等との連携による案内実施を検討するほか、これらの歴史情報等を学習し、案内人を育成することも必要となることから、人材育成の取り組みについての検討を行う。
- 散策路周辺の定期的な草刈りや清掃など、維持管理活動の協力体制を検討する。



(1) マラソン大会の復活

① 背景

川中地区ではかつて、「のべおか若鮎マラソン大会」が開催されていましたが、交通事情やコースの安全確保の面から、平成 18 年の第 30 回大会を最後に実施が途絶え、今では、高水敷や堤防上の一部を使った、天下一ひむか桜菜の花まつりに合わせた「ミニマラソン」や、「五ヶ瀬川リレーマラソン大会」が開催されています。



こうした中で、平成 26 年 2 月には、川中地区上流部で新たに整備された回遊できる散策路等を利用した、「のべおかこのはなマラソン練習会」が行われました。

回遊できる散策路部会では、延岡アスリートタウン構想や延岡走ろう会のメンバーからの要望を踏まえ、川中地区の回遊できる散策路の上流域と下流部の全域をコースとした「ハーフマラソン大会（若鮎マラソン大会）」の開催を目指そうと考えたものです。

② 検討の経緯（意見）

●アスリートタウン構想やゴールデンゲーム等の開催を背景に延岡市では市民ランナーが多く、五ヶ瀬川の堤防上や散策路をジョギングする姿が日常の風景となっている。延岡市を中心にさらにスポーツ振興に力を入れて、地域の経済効果につなげていくためには、市民が安全に走れるコースの確保が必要である。

●かつては延岡市主催による「のべおか若鮎マラソン大会」が行われていたが、交通量の増加や安全なコースの確保が厳しくなり開催が途絶えてしまった。現在、高水敷や堤防上の一部を使って、ミニマラソン大会等が行われているが、回遊できる散策路が完成すれば、車両との分離による安全性が確保されることから、市民のジョギング利用や、かつて行われていた若鮎マラソン大会の復活版としてのハーフマラソン大会レベルの開催が可能となる。

●整備・維持修繕が進み安全が確保された区間(上流部)から、練習会の開催やミニマラソン大会等の利用等を始めていき、整備が進むにつれて、走る距離を長くし、ハーフマラソン大会等の開催を計画していけばいい。

●マラソン大会を魅力あるものにするためには、菜の花祭り等のイベントと併せた開催が望ましいもので、同時開催することによって、県外からの参加者も増え、宿泊客等の増加、地域の活性化に繋がるものと期待される。

●ただし、練習会やハーフマラソン大会の開催・運営に関しては相応の組織が必要であり、延岡走ろう会では高齢化に伴い、その労は難しく、新たな団体を加えたところでの対策が必要である。

●マラソン大会や練習会開催の際は、コース周辺の草刈り等の事前の準備も必要であり、大会等の開催時には周囲に協力をお願いして実施していく必要がある。

◀【参考】「のべおかこのはなマラソン練習会」の様子▶（平成 26 年 2 月 23 日開催）



当日は高校生などの若者を含む大勢の参加者が集まりました。!

③ アクションプランの内容

●回遊できる散策路への整備

- 国土交通省及び延岡市は、回遊できる散策路を使ったジョギング利用、マラソン練習会の開催、全域を使った「ハーフマラソン大会」の開催を視野に入れ、川中地区を回遊できる散策路の安全性の確保のための維持修繕と舗装について、可能な箇所から整備を進めていきます。

●マラソン（ジョギング）コースの設定

- 回遊できる散策路部会は、整備された散策路を使ったマラソン(ジョギング)コースの設定（ハーフ、10 km、5 km、3 km、ウォーキング）※を図ります。
 - 回遊できる散策路部会は、延岡走ろう会との協議を行い、上記のマラソン（ジョギング）コースの紹介や路面表示、サイン計画等のコース利用に必要な施設を抽出し対応を進めるものとし、国土交通省、延岡市、関係機関への協力を要請します。
- ※コースの設定案は後述参照。

●コースを使った練習会等の当面の開催と今後の運営団体の発掘

- 「延岡走ろう会」が中心となって、回遊できる散策路部会・ボランティア・国土交通省・延岡市等の行政との協力も図り、平成 26 年 2 月に開催した「このはなマラソン練習会」の開催を継続します。
- 回遊できる散策路部会は、「延岡走ろう会」と協議を図りながら、今後の「ハーフマラソン大会（若鮎マラソン大会）」の復活に向けて、マラソン大会の主體的運営や支援を行う新たな地域の団体の参画等を進めていくため、地域でスポーツ活動を行っている団体等へのアプローチを図ります。

●維持管理活動

- 回遊できる散策路部会は、「延岡走ろう会」と協議を行い、ボランティアの確保や行政への協力体制等を検討し、このはなマラソン練習会等の開催に合わせ、散策路周辺の草刈りや清掃活動の実施を計画します。

④ 取り組みのスケジュール（当面3カ年のスケジュール予定）

取り組み内容	主体	H26				H27				H28～			
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
コースの設定	回遊できる散策路部会、延岡走ろう会		■	コース設定									
マラソン練習会等の当面の運営	延岡走ろう会 ※(1)				■	当面は2月に開催							■
散策路周辺の草刈り・清掃	回遊できる散策路部会 延岡走ろう会 行政 ボランティア ※(2)				■								■
今後の運営組織の構築の検討	回遊できる散策路部会	新たな組織・団体等へのアプローチ -----▶											
散策路の維持・修繕	延岡市	練習会の開催前に可能な範囲で実施 -----▶											
散策路未整備箇所の舗装・坂路の整備	国土交通省	上流側の可能な箇所から実施 -----▶											
路面への距離表示等	国土交通省 延岡市	路面表示内容を検討後に実施 -----▶											

※(1)：マラソン練習会の開催に関しては、当面は「延岡走ろう会」を主体に、回遊できる散策路部会で行政への支援要請やお手伝いできるボランティアの募集を図る等の支援を行います。

※(2)：散策路周辺の草刈りや清掃に関しては、「延岡走ろう会」・回遊できる散策路部会で行政への支援の要請を行うとともに、ボランティアの協力をお願いする等の支援を行います。

⑤ 引き続き検討すべき事項

- 「ハーフマラソン大会」の開催に際しては、大会の主体的運営や支援を行う新たな地域の団体の発掘等を行い、マラソン大会運営組織の構築について具体的な検討を進めていくことが必要です。



図2 のべおかこのはなマラソン 3 kmコース (案)



図3 のべおかこのはなマラソン 5 kmコース (案)



図4 のべおかこのはなマラソン 10 kmコース (案)

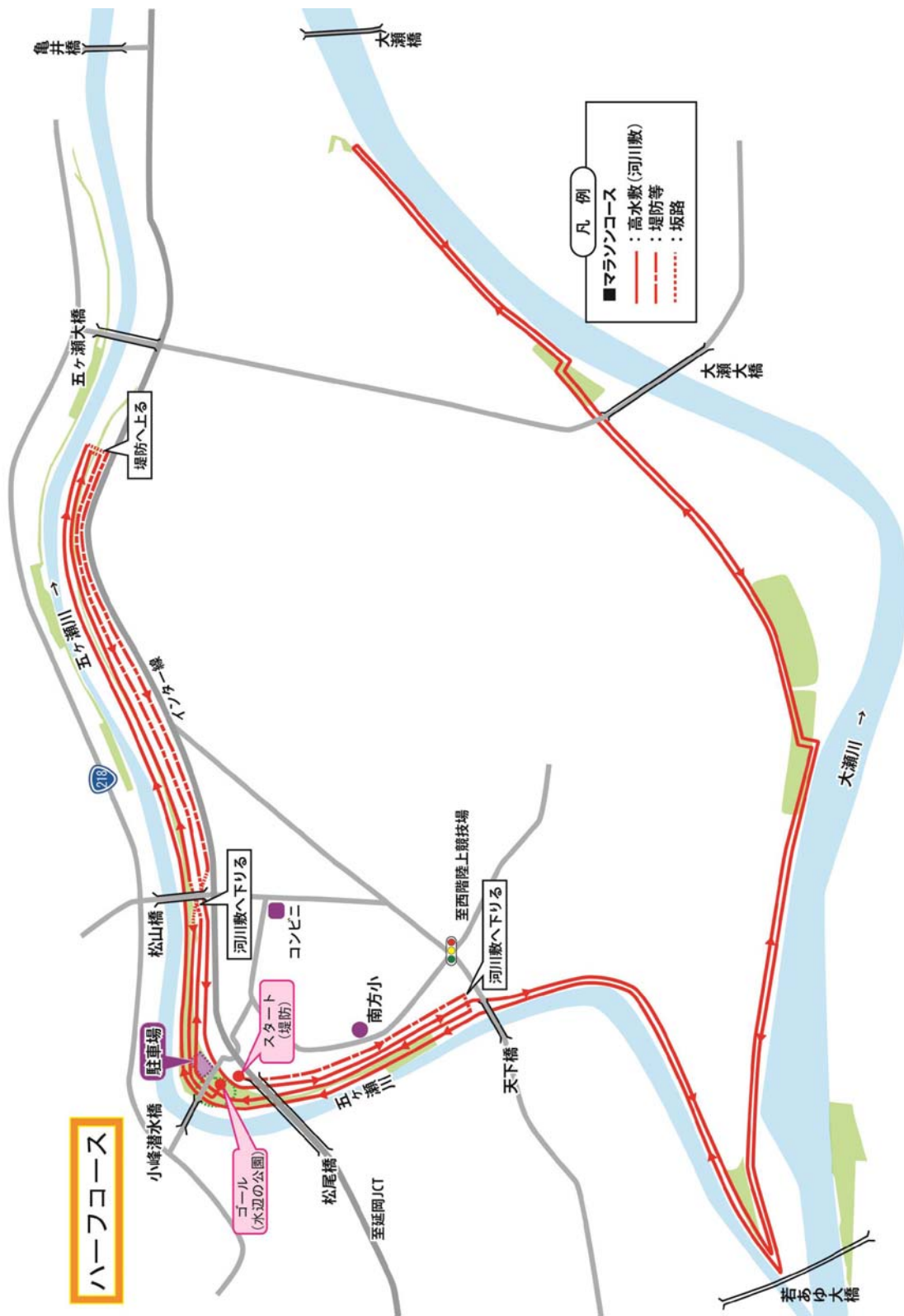


図 5 のべおかこのはなマラソン ハーフコース (紫)

(2) 豊堤周辺整備と「豊堤かわまち灯り」の継続

① 背景

五ヶ瀬川市街地部には歴史的治水施設として全国に3例しかない「豊堤」が残っており、地域住民自らが防災活動を行ってきた証として地域の防災意識向上のシンボルになっています。

近年は、地域の豊堤の認識も薄れつつあるため、「五ヶ瀬川の豊堤を守る会」が中心となって豊堤のPRを通じた防災意識の啓発に取り組んでいます。

豊堤を観光資源として活用するため、平成25年から「豊堤かわまち灯り」の取り組みも行われています。

今後も豊堤周辺の整備を進めるとともに、五ヶ瀬川の防災意識の啓発を継続していくと目指します。



② 検討の経緯（意見）

●豊堤は全国に3例しか残っていない先人の豊かな発想に基づく防災施設であり、延岡市の代表的な遺構としてPRを図っていけば、十分に観光資源となりえるものとする。また、防災意識の啓発を目的に、後世に伝えていく必要があるものとする。

●「五ヶ瀬川の豊堤を守る会」を中心に豊堤のPRの取り組みや防災意識の向上等を目的とする各種の活動が行われている。

●平成25年から「五ヶ瀬川の豊堤を守る会」によって、花火大会に合わせて豊堤にろうそくの灯りを灯した「豊堤かわまち灯り」を始めたところである。幻想的な風景に先人たちの知恵を感じることが出来たとの好評価であったが、ろうそくの着火に多くの手間を要したり、風に対するろうそくの火の安全性の確保等いくつかの課題も確認され、今後の継続開催に向けては、これらの課題の対応を検討することが必要である。

●一方で、豊堤に近づいたり、周辺の散策コースとして利用するために、安全に散策できるための整備が必要である。

●今後は、これらの活動を継続するとともに、豊堤の防災機能や歴史を紹介するための広報やサイン計画等の整備も併せて必要である。

③ アクションプランの内容

●畳堤周辺の整備

- 国土交通省は、畳堤の維持管理や周辺を安全に散策利用できるようにするため、周辺住民との合意形成を図りながら畳堤周辺の整備を図ります。
- 回遊できる散策路部会は、「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」と協議を行い、畳堤の歴史や機能を紹介するためのサイン計画の検討を図り、国土交通省・延岡市への協力を要請します。

●畳堤プロジェクトの立ち上げ

- 国土交通省は、延岡市と協力し、「水郷のべおか」の歴史・文化の継承のため、水防活動時の通路利用による維持管理の向上、防災教育や畳堤の観光利用等、地域と連携して畳堤周辺の整備計画を検討していくことを目的とする、「畳堤プロジェクト」を立ち上げます。

●畳堤かわまち灯りの継続開催

- 「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」は、平成 25 年 11 月花火大会に併せて取り組みが始まった「畳堤かわまち灯り」の継続的な開催について中心的な役割を担います。
- 「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」は、「畳堤プロジェクト」の協議内容を踏まえ、「畳堤かわまち灯り」の継続的な開催に向けて、必要な支援策の抽出を図ります。
- 回遊できる散策路部会は、「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」からの必要な支援策について対応を検討し、部会で対応可能なものについてはその支援を行い、併せて行政や関係機関へ支援の協力を要請します。

●畳堤かわまち灯りの安全なライトアップ方法の改善

- 「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」は、「畳堤プロジェクト」の協議結果も踏まえ、「畳堤かわまち灯り」の継続的な開催のために、課題であったろうそくの灯りに代わる取り組みとして、畳堤にイルミネーションをつなげて灯りを灯す等、安全なライトアップ方法の改善策の検討を行います。
- 回遊できる散策路部会は、検討された改善策の対応を協議し、可能なものについてはその支援を行い、併せて行政や関係機関へ支援の協力を要請します。

●維持管理活動

- 回遊できる散策路部会は、「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」との協議を行い、ボランティアの確保や行政への協力体制等を検討し、「畳堤かわまち灯り」等の開催に合わせ、畳堤周辺の草刈りや清掃活動の実施を計画します。

④ 取り組みスケジュール（当面3カ年のスケジュール予定）

取り組み内容	主体	H26				H27				H28～			
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
畳堤プロジェクトの立ち上げ	国土交通省 延岡市		■										
畳堤かわまち灯りの継続開催	五ヶ瀬川の畳堤を守る会 ※(1)					「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」による継続開催 (■)						■	
畳堤周辺の草刈り・清掃	五ヶ瀬川の畳堤を守る会 回遊できる散策路部会 行政ボランティア ※(2)					かわまち灯りの前に実施 (■)							■
畳堤周辺の整備	国土交通省												▶

※(1)：「畳堤かわまち灯り」の開催に関しては、「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」を中心に取り組むものとしませんが、必要な支援策について回遊できる散策路部会で検討を行い、可能なものについては支援を行うとともに、行政への協力の要請やお手伝いできる方の募集を図ります。

※(2)：畳堤周辺の草刈りや清掃に関しては、「五ヶ瀬川の畳堤を守る会」・回遊できる散策路部会で行政への支援の要請を行うとともに、ボランティアの協力をお願いする等の支援を行います。

⑤ 引き続き検討すべき事項

- 「畳堤プロジェクト」を早期に立ち上げ、畳堤周辺整備に関する各課題の対応と調整を図っていくことが必要です。

(3) 河川敷を活用した散策利用

① 背景

川中地区の市街地には、畳堤や二線堤※(1)、水神様をはじめ、魅力ある歴史的遺構が数多く点在しています。

これらの歴史的遺構を結ぶまちあるき散策コース（ウォーキングコース・フットパス）等を設定し、市民が日常的に散策したくなるような河川空間の創出・観光客の誘致を図り、さらなる五ヶ瀬川の魅力向上を目指します。



② 検討の経緯(意見)

●川中地区には、畳堤や二線堤※(1)、水神様をはじめとする歴史的遺構や魅力のあるスポットが数多く存在している。

●観光スポットを巡る散策や健康志向を目的とするウォーキング等の活動が注目されており、特に最近では JR 九州によるウォーキング企画等が観光客誘致の一役を担っている。

●回遊できる散策路に加え、市街地に数多く点在している歴史的遺構を巡るまちあるき散策コース等を設定することで、より多くの人々が散策路を利用することが期待できる。また、利便性を高めるための方策としてQRコードの活用を図る等の取り組みを併せて行くと、さらに散策路の利用が高まると期待される。

●散策路の利用が増えると、利用環境が維持されるとともに、環境美化への啓発にもつながるものと考えられる。

※(1)二線堤とは本堤防背後の堤内地に築造される堤防のことを言います。

③ アクションプランの内容

●回遊できる散策路の整備

- 国土交通省及び延岡市は、「かわ」と「まち」を結ぶために、川中地区の「回遊できる散策路」の整備、維持修繕を可能な箇所から進めていきます。
- 回遊できる散策路部会は、散策路利用の利便性を高めることを目的に、情報提供方策の検討を行います。
- 情報提供方策の中で、QRコード設置等可能な取り組みについては、国土交通省や延岡市へその実施を要請します。

●散策コースの設定と広報等

- 回遊できる散策路部会は、「延岡歩こう会」のメンバー等と一緒に、市街地部の魅力ある施設等を自ら歩きまわり、歴史的遺構や魅力のある施設を散策する「まちあるき散策コース」の設定を図ります。
- 回遊できる散策路部会は、設定した散策コースをPRするための方策の検討、JR九州ウォーキング等との連携方策を検討し、国土交通省や延岡市、関係機関との協力を要請し、さらなる利用の多様化に取り組みます。

●コースの案内と人材育成

- 回遊できる散策路部会は、「延岡歩こう会」や「ボランティア協会」との連携を図り、設定した「まちあるき散策コース」で紹介する歴史的遺構等の解説・案内についての実施方策を検討します。
- 回遊できる散策路部会は、「延岡歩こう会」・「ボランティア協会」と協力し、「まちあるき散策コース」で紹介する歴史的遺構等の解説など、コースを案内できる人材の育成について、今後の方策を検討します。

●散策路周辺の草刈り・清掃活動

- 回遊できる散策路部会は、散策路周辺の草刈りや清掃等の活動について、定期的な一斉清掃活動の日等の設定を検討します。
- 実施の際は、文化・自然活動ゾーン部会と連携を図りながら、ボランティアの確保や行政・関係団体等への協力を要請します。（※延岡アースデイ等との協働）

④ 取り組みスケジュール（当面3カ年のスケジュール予定）

取り組み内容	主体	H26				H27				H28～			
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
まちあるき散策コースの設定	回遊できる散策路部会 「延岡歩こう会」 ※(1)			メンバー有志		実際に歩いてコースを設定							
散策コースの広報	回遊できる散策路部会 行政 ※(2)									コース設定後に広報計画を検討			
散策コースの案内と人材の育成	回遊できる散策路部会 ボランティア協会 ※(3)									ボランティア協会等と連携して検討			
散策路周辺の草刈り・清掃活動	回遊できる散策路部会 ボランティア協会 行政 ※(4)									定期的な活動を検討			
散策路未整備箇所の整備	国土交通省									上流側の可能な箇所から実施			
QRコード等の情報提供等	国土交通省									コース設定後にQRコード等表示内容を整備			

※(1)：散策コースの設定に関しては、「回遊できる散策路部会」・「延岡歩こう会」のメンバーを中心に、歴史的遺構や魅力ある施設を実際に歩いてみて、お勧めするコースの設定を図ります。

※(2)：散策コースの広報に関しては、延岡市や国土交通省の広報媒体の利用を検討する他、JRウォーキング企画との連携等の取り組みを検討します。

※(3)：散策コースの案内に関しては、ボランティア協会への協力を依頼するとともに、人材育成の必要性も含め、その方策をボランティア協会等との協力の基で検討します。

※(4)：散策路周辺の草刈りや清掃に関しては、回遊できる散策路部会で行政へ支援の要請を行うとともに、ボランティアの協力要請等を行います。

⑤ 引き続き検討すべき事項

- 回遊できる散策路部会のメンバーや「延岡歩こう会」等の方々とともに、散策路を歩きながら周辺の歴史や魅力を発掘し、それらに触れる散策コース（フットパス）を設定した上で、散策に必要な整備内容を具体化することが必要です。

回遊できる散策路 アクションプランの全体概要

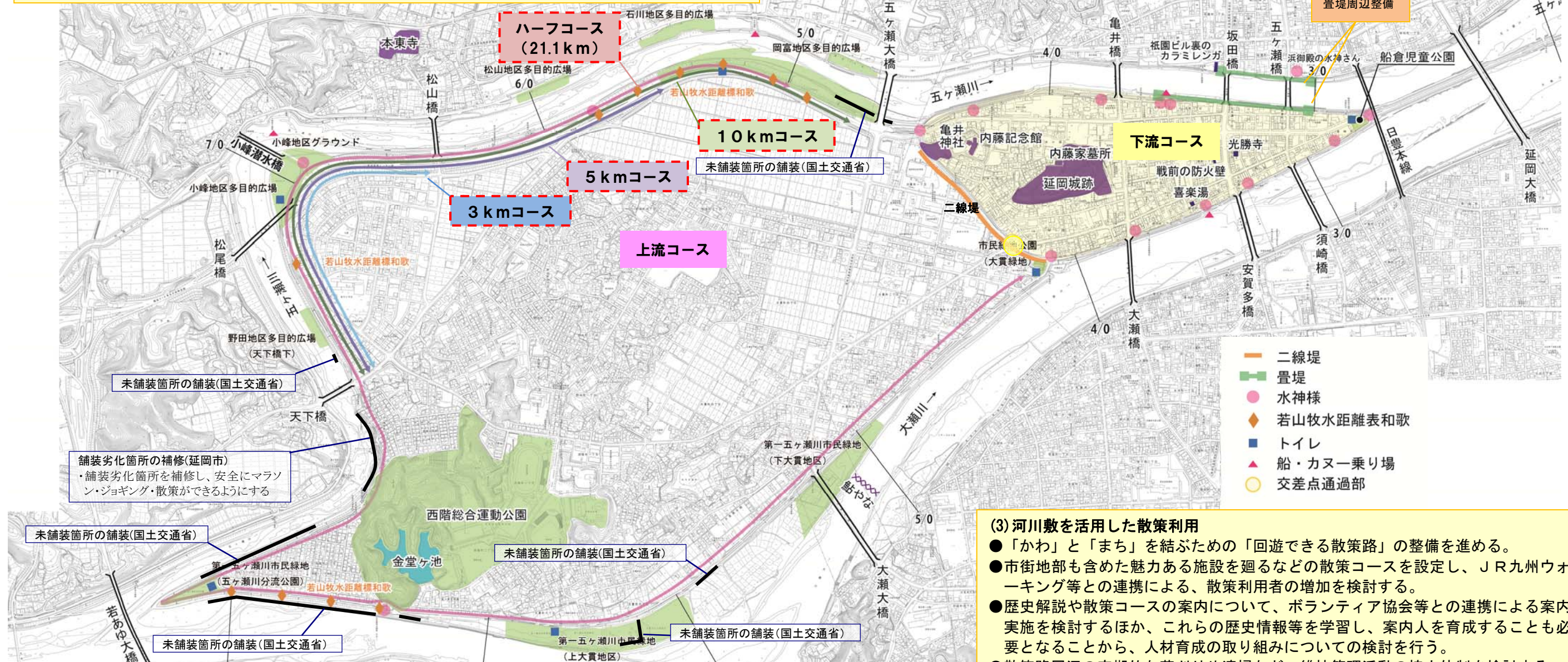
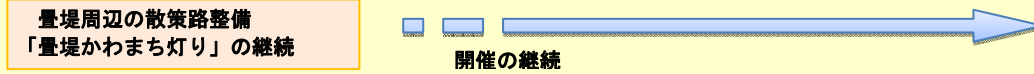
(1) マラソン大会の復活

- 回遊できる散策路の整備について、可能な箇所から整備を進める。
- 整備された散策路を使ったマラソン（ジョギング）コースを設定し、スタート地点からの距離がわかるように距離表示を行うとともに、設定したコースについて市民へPRを行う。
- 整備されたコースでの練習会を開催する一方で、ハーフマラソン大会（かつての若駒マラソン大会の復活）の開催に向け、大会の主体的運営と支援可能な新たな組織の構築を検討する。
- 練習会開催やマラソン大会の開催に際して、草刈りや清掃などの維持管理活動の協力体制を検討する。



(2) 畳堤周辺整備と「畳堤かわまち灯り」の継続

- 畳堤周辺の散策路整備を進め、今後の畳堤に関する取り組みを考える「畳堤プロジェクト」の立ち上げを行う。
- 平成25年から始まった「畳堤かわまち灯り」の継続開催を支援する。
- 「畳堤かわまち灯り」の際の安全かつ効果的なライトアップ方法の改善について、その対応を支援する。
- 「畳堤かわまち灯り」開催に際しての草刈りや清掃などの維持管理活動の協力体制を検討する。



(3) 河川敷を活用した散策利用

- 「かわ」と「まち」を結ぶための「回遊できる散策路」の整備を進める。
- 市街地部も含めた魅力ある施設を廻るなどの散策コースを設定し、JR九州ウォーキング等との連携による、散策利用者の増加を検討する。
- 歴史解説や散策コースの案内について、ボランティア協会等との連携による案内実施を検討するほか、これらの歴史情報等を学習し、案内人を育成することも必要となることから、人材育成の取り組みについての検討を行う。
- 散策路周辺の定期的な草刈りや清掃など、維持管理活動の協力体制を検討する。



《引き続き検討すべき事項》

(1) マラソン大会の復活

「ハーフマラソン大会」の開催に際しては、大会の主体的運営や支援を行う新たな地域の団体の発掘等を行い、マラソン大会運営組織の構築について具体性を高めていくことが必要です。

(2) 畳堤周辺整備と「畳堤かわまち灯り」の継続

畳堤プロジェクトを早期に立ち上げ、畳堤周辺整備に関する各課題の対応と調整を図っていくことが必要です。

(3) 河川敷を活用した散策利用

回遊できる散策路部会のメンバーや「延岡歩こう会」等の方々とともに、散策路を歩きながら周辺の歴史や魅力を発掘し、それらに触れる散策コース（フットパス）を設定した上で、散策に必要な整備内容を具体化することが必要です。

回遊できる散策路 アクションプラン

3.2.2 文化・自然活動ゾーン

文化・自然活動ゾーンでは、安全に配慮した水際へのアクセスや活動の拠点となる広場の確保等の整備との連携を図りながら、自然観察や川に親しむ活動、城山公園と連携した“城下町のべおか”としての文化的・歴史的施設を巡る散策の日常利用等、延岡の新たな地域交流拠点としての機能を創出することを目指します。

《文化・自然活動ゾーン（五ヶ瀬大橋上流）のコンセプト》

- ・ 自然環境の保全を図りつつ、地域のまつり・イベントの拠点にもなりうる水辺空間を創出し、延岡市域の地域活性を促進します。
- ・ 今後はリバーフェスタのべおかをはじめ、「延岡花物語～このはなウォーク～」の新たな開催場所や城山公園と連携した城下町のべおかの文化的・歴史的施設を巡る散策等の日常利用や各種イベントが開催できる場所として、利活用・整備・維持管理体制を整備します。

《利活用の方向性》

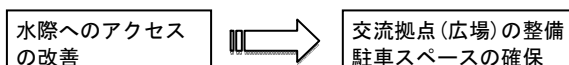
- ・ 「延岡花物語～このはなウォーク～」の継続
- ・ リバーフェスタのべおかの継続
- ・ 自然体験・水辺利用、“城下町のべおか”としての文化的・歴史的施設を巡る散策等の日常利用

※年間を通した日常利用の視点

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ネイチャーゲームなどの自然体験活動 ・ 散策・ジョギングなどの継続 ・ カヌー、カヤック、ボート遊び、釣り ・ “城下町のべおか”の各種の歴史施設を巡る散策 等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ バードウォッチングなどの自然観察 ・ 子どもが安全に遊べる日常的な水辺利用 ・ 年間を通したフラワーロード |
|---|---|

《整備の方向性》

- ・ 水際へのアクセスの改善、交流拠点となる広場・駐車スペースの確保



《維持管理の方向性》

- ・ 延岡花物語～このはなウォーク～、リバーフェスタのべおか等のイベント開催時には、活動団体を主体に、行政や関係団体、ボランティア等の協力により、草刈りや清掃活動の実施に取り組む。

【アクションプランの概要】

(1) 五ヶ瀬川を利用した観光振興（延岡花物語～このはなウォーク～）

- 「延岡花物語～このはなウォーク～」の五ヶ瀬川での継続的な開催に向け、会場配置等の見直しに合わせて、可能な範囲で整備内容の改善検討に取り組む。
- 「延岡花物語～このはなウォーク～」の継続開催のために必要となる支援策とその対応を検討する。
- 河津桜の立ち枯れについて、管理者へ対策を要請する。

五ヶ瀬川を活用した観光振興
（延岡花物語）

継続開催

(2) ふるさとの川、五ヶ瀬川の魅力再発見（リバーフェスタのべおか）

- 五ヶ瀬川を会場とした「リバーフェスタのべおか」の開催継続に必要な支援策とその対応を検討する。
- 「リバーフェスタのべおか」開催に合わせた草刈りや清掃などの維持管理活動の協力体制を検討・実施する。
- 五ヶ瀬川での親水活動促進のため、水質日本一の継続に向けた啓発活動を行う。
- 五ヶ瀬川の利用促進を図るための新たな企画として、「お父さん、お母さんのための川遊び村」を試行開催する。

ふるさとの川 五ヶ瀬川の魅力再発見
（リバーフェスタのべおか）

継続開催

川遊び村の試行開催

試行開催

リバーフェスタのべおかとの連携

(3) 年間を通した日常利用

- 堤防上や散策路を利用した散策・ジョギング利用について、現状の利用状況を継続するために必要となる取り組みとその対応を検討する。
- 整備された高水敷の広場や水辺周辺において、年間を通して活用できるための新たな親水活動プログラムとして、水辺の環境学習やバードウォッチング等の実施企画を検討する。

新たなプログラムの企画検討

(4) 五ヶ瀬川を活用した観光振興 (延岡花物語～このはなウォーク～)

① 背景

五ヶ瀬川を対象として、延岡アースデイなどを通じて植栽した菜の花と河津桜(天下一ひむか桜)の景観を市民に楽しんでもらおうと「天下一ひむか桜菜の花まつり」を毎年2月に開催しており、これまでに4回の開催を数えています。



平成26年は本東寺や城山にも範囲を広げ「延岡花物語～このはなウォーク～」として開催しました。

「延岡花物語～このはなウォーク～」の取り組みを五ヶ瀬川にて継続的に開催し、五ヶ瀬川での代表イベントとして位置付け、より一層河津桜や菜の花を中心とした景観向上や散策による日常利用を促進を図り、市民や観光客が今まで以上に五ヶ瀬川に接する機会を広く提供することを目指します。

② 検討の経緯(意見)

平成25年2月(3回目)までは、延岡アースデイなどを通じて植栽した菜の花と河津桜(天下一ひむか桜)の景観を市民に楽しんでもらおうと「天下一ひむか桜菜の花まつり」として開催してきた。

平成26年2月(4回目)の開催は、五ヶ瀬川の高水敷等での開催と併せて、本東寺や城山にも範囲を広げ「延岡花物語～このはなウォーク～」と題して取り組みを拡大したところ、約3万人の来訪者があり、好評価が得られた。

今後も五ヶ瀬川を対象箇所としての継続的な開催が望まれている。
一方では、河川敷利用での風対策、観光バスの駐車場配置、会場内の上・下水道施設に関する課題等が挙がっており、継続的な開催に向けて、これらの課題への対応が必要である。

③ アクションプランの内容

●会場の配置計画の見直しに対する整備

○国土交通省及び延岡市は、「延岡花物語～このはなウォーク～実行委員会」とともに「延岡花物語～このはなウォーク」の五ヶ瀬川での継続的な開催に向けて、会場の施設配置等の見直しに合わせて高水敷整正・アクセス坂路の設置等の整備内容について、可能な範囲で改善検討に取り組みます。

●支援の継続

○文化・自然活動ゾーン部会は、検討された支援策の対応を協議し、可能なものについてはその支援を行い、併せて行政や関係機関へ支援の協力を要請します。

●会場周辺の草刈り・清掃活動

○文化・自然活動ゾーン部会は、回遊できる散策路部会と連携し、周辺の草刈り・清掃等の活動について、定期的な一斉清掃活動の日等の設定を検討します。

●河津桜の維持管理

○文化・自然活動ゾーン部会は、河津桜の立ち枯れが確認されていることに対して、可能なものについてはその支援を行い、併せて行政や関係機関へ支援の協力を要請します。

④ 取り組みスケジュール(当面3カ年のスケジュール予定)

取り組み内容	主体	H26				H27				H28～			
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
「延岡花物語～このはなウォーク～」の継続的な開催	延岡花物語～このはなウォーク～実行委員会 文化・自然活動ゾーン部会 行政 ※(1)				■	これまで同様に2月での開催を継続します							■
会場周辺の草刈り・清掃	文化・自然活動ゾーン部会 行政 ボランティア ※(2)				■	定期的な草刈り・清掃活動の実施を計画します							■
高水敷整正、坂路等整備の見直し対応	国土交通省 延岡市 ※(3)					配置等の見直しに応じて可能な対応を検討します							▶

※(1)：「延岡花物語～このはなウォーク～」の開催に関しては、「延岡花物語～このはなウォーク～実行委員会」を中心に取り組むものとしませんが、行政への支援の要請や文化・自然活動ゾーン部会でお手伝いできる方の募集を図る等の支援を行います。

※(2)：文化・自然活動ゾーンの草刈りや清掃に関しては、行政や文化・自然活動ゾーン部会で開催の案内やボランティアの協力をお願いする等の支援を行います。

※(3)：「延岡花物語～このはなウォーク～」の開催計画の見直しに応じて、必要な整備の再検討を図り、可能な範囲で整備に取り組むものとしします。

⑤ 引き続き検討すべき事項

- 「延岡花物語～このはなウォーク～」の開催に対して、河川敷利用での風対策の必要性や、観光バスの駐車場配置等の課題、会場内の上・下水道施設等に関する課題等が挙がっており、五ヶ瀬川で継続して開催するための課題を再整理し、その対応策の検討が必要です。

(5) ふるさとの川、五ヶ瀬川の魅力再発見 (リバーフェスタのべおか)

① 背景

「リバーフェスタのべおか」は、子どもたちに『ふるさとの川、五ヶ瀬川の魅力再発見』のための教育・啓発を目的に開催されており、平成 25 年の開催で 20 周年を迎えました。

平成 25 年の開催は、会場を比較的親水活動に適している五ヶ瀬川に移して実施を図りました。

今後は、引き続き、五ヶ瀬川にて「リバーフェスタのべおか」の取り組みを継続するとともに、五ヶ瀬川を親水活動の拠点とした新たなプログラムの検討を進め、市民による『ふるさとの川再発見』を通して、市民に地元の川の素晴らしさを伝え、市民が川に接する機会を広く提供し、郷土愛を育成することを目指していきます。



② 検討の経緯(意見)

● これまでは大瀬川で実施していた「リバーフェスタのべおか」を安全・安心して開催するために、平成 25 年は比較的親水活動に適している五ヶ瀬川で試行的に実施を図った。

● 五ヶ瀬川の試行実施については、川へのアクセスや河道・水深など、子供達を対象としたプログラムの実施にあたり、安全性の確認ができた。

● 引き続き、五ヶ瀬川での開催を望む意見、また、夏休みの河川プール等の親水活動を望む声も挙がっている。

また、保護者の水遊びに対する経験も少ないことから、保護者を対象とした新たな親水活動プログラムを望む声もある。

一方では、継続的な開催のためには、水道、トイレ等の設置についての要望も挙がっている。

③ アクションプランの内容

●利活用に合わせた高水敷・水際部の整備

- 国土交通省及び延岡市は、「リバーフェスタのべおか実行委員会」において、継続的な開催に向け、可能な範囲での改善を支援します。
- 国土交通省及び延岡市は、今後の親水活動・環境学習の実施プログラムの検討に応じて、可能な範囲で整備を図ります。

●「リバーフェスタのべおか」への継続的な支援

- 文化・自然活動ゾーン部会は、「リバーフェスタのべおか実行委員会」と協力し、「リバーフェスタのべおか」の開催に合わせて、開催個所周辺の草刈りや清掃、トイレの準備等の必要な支援策について、可能なものは支援を実施し、併せて行政や関係団体等への支援の要請、ボランティアの確保等を行い、協力体制を図って取り組んでいきます。

●新たな水遊びの安全教室プログラムの試行

- 文化・自然活動ゾーン部会は、川の安全教室、川遊びの楽しさや学びを提供する新たなプログラムとして、「お父さん、お母さんのための川遊び村」の試行開催を図ります。
- 今後は、文化・自然活動ゾーン部会と「リバーフェスタのべおか実行委員会」との協議・連携により、「リバーフェスタのべおか」の中でのプログラムとしての継続実施を検討します。

●水質日本一を目指した啓発活動

- 文化・自然活動ゾーン部会は、国土交通省及び延岡市との協力を図り、五ヶ瀬川での親水活動を促進するため、「リバーフェスタのべおか」の開催時に、水質の現状説明や水質日本一に関するチラシの作成・配布等による啓発活動に取り組みます。

●散策路、高水敷周辺の草刈り・清掃活動

- 文化・自然活動ゾーン部会は、「リバーフェスタのべおか実行委員会」と協力し、「リバーフェスタのべおか」や「お父さん、お母さんのための川遊び村」等のイベント開催時には、行政への協力やボランティアへの協力依頼を図り、草刈り・清掃活動の実施を図ります。

≪【参考】「お父さん、お母さんのための 川遊び村」の様子≫（平成 26 年 7 月 20 日開催）



親子でライフジャケット装着完了！



テレビ局や各種新聞社も取材に来ました！

④ 取り組みスケジュール（当面 3 カ年のスケジュール予定）

取り組み内容	主体	H26				H27				H28～			
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
「リバーフェスタのべおか」の開催	リバーフェスタのべおか実行委員会 文化・自然活動ゾーン部会 行政 ボランティア ※(1)		■			これまで同様に夏季での開催を継続します					■		
新たな親水活動プログラム「川遊び村」の試行開催	文化・自然活動ゾーン部会 ※(2)		■			H26.7 に試行開催を図り、その後はリバーフェスタでの開催を検討します							
会場周辺の除草・清掃	文化・自然活動ゾーン部会 行政 ボランティア ※(3)		■			リバーフェスタ開催前での活動を計画します					■		
高水敷・水際アプロ一ち部の整備	国土交通省 延岡市 ※(4)												➡

※(1)：「リバーフェスタのべおか」の開催に関しては、「リバーフェスタのべおか実行委員会」を中心に取り組むものとしませんが、行政への支援の要請や文化・自然活動ゾーン部会でお手伝いできる方の募集を図る等の支援を行います。

※(2)：新たな親水活動プログラムである「お父さん、お母さんの川遊び村」の試行に関しては、文化・自然活動ゾーン部会を中心に開催を行い、課題の把握等を図りながら、今後は、「リバーフェスタのべおか」のプログラムとしての開催を検討していきます。

※(3)：文化・自然活動ゾーンの草刈りや清掃に関しては、行政や文化・自然活動ゾーン部会で開催の案内やボランティアの協力をお願いする等の支援を行います。

※(4)：「リバーフェスタのべおか」・「お父さん、お母さんの川遊び村」の開催計画に応じて、必要な整備の再検討を進め、可能な範囲での整備に取り組むものとしします。

⑤ 引き続き検討すべき事項

- 五ヶ瀬川は渇水時には水量が少なく、水質も変化する傾向にあるため、水質日本一を継続する啓発活動に取り組むこと、渇水時の水の確保策について調整を図ることが必要です。

(6) 年間を通した日常利用

① 背景

文化・自然活動ゾーンには見通しの良い堤防散策路があり、散策路沿いの河津桜や菜の花等の景観を楽しみながら歩けるため、市民の日常的なジョギング・散策コースとして親しまれています。

一方、河川敷や水辺空間には安全にアクセスすることが難しい等の課題があることから、水辺の利用性を向上させるために堤防上の散策路空間と水辺空間との機能が融合したゾーンとしての整備が進められています。



今後は、清流五ヶ瀬川の水辺空間で、子どもたちが四季の移り変わりを感じながらジョギングや散策が継続して行われるとともに、多目的広場としての活用や親水活動等による日常利用の促進を目的とした新たなプログラムの追加を検討します。

② 検討の経緯(意見)

●見通しの良い堤防上の散策路が整備されており、散策路沿いの河津桜や菜の花等の景観を楽しみながら歩けるため、市民の日常的なジョギング・散策コースとして親しまれた河川空間となっている。

●一方、河川敷や水辺空間に安全にアクセスすることが難しい等の課題があったことから、利活用を向上させるために堤防上の散策路空間と水辺空間との機能が融合した整備が進められた。

●整備された河川空間において、ジョギングや散策路の更なる利用が期待されるとともに、安全な川遊びの場としてワンドを利用した水辺環境学習の実施や水際を利用したバードウォッチング等の新たな親水活動のプログラムの実施等を望む声が挙がっている。

●今後は河川敷や水辺空間の日常利用の促進が望まれている。

③ アクションプランの内容

●ジョギングや散策利用の継続

- 文化・自然活動ゾーン部会は、回遊できる散策路部会・「延岡走ろう会」・「延岡歩こう会」と協力し、ジョギングや散策利用の継続的な利用及び利便性の向上を目的に、距離表示やサイン計画等の必要となる整備内容を検討します。
- 文化・自然ゾーン部会は、回遊できる散策路部会と連携し、検討した結果を基に、国土交通省・延岡市へ必要な整備の要請を図ります。

●年間を通じた新たなプログラムの構築

- 文化・自然活動ゾーン部会は、高水敷の広場や水辺空間・ワンドを利用した水辺の環境学習やバードウォッチング等の新たな親水プログラムの企画検討を行い、併せて試行可能なものについては、行政や関係団体等への協力を要請し、試行開催に向けた取り組みを図ります。

●散策路、高水敷周辺の草刈り・清掃活動

- 文化・自然活動ゾーン部会は、散策路周辺の草刈りや清掃等の活動について、定期的な一斉清掃活動の日等の設定を検討し、実施の際は、回遊できる散策路部会との連携を図りながら、行政や関係団体等への協力を要請します。
(※延岡アースディ等との協働)

④ 取り組みスケジュール（当面3カ年のスケジュール予定）

取り組み内容	主体	H26				H27				H28～			
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
新たな親水活動等のプログラムの検討	文化・自然活動ゾーン部会 ※(1)			プログラムの企画	検討	試験							
会場周辺の草刈り・清掃	文化・自然活動ゾーン部会 行政 ボランティア ※(2)		■			■					■		
距離表示やサイン計画の整備	国土交通省 延岡市 ※(3)												

※(1)：ワンドを利用した環境学習やバードウォッチング等の新たな親水活動プログラムの検討に関しては、「文化・自然活動ゾーン部会」を中心に企画・検討を行い、試行開催の際は、行政への支援の要請やボランティアの方の募集を図る等を行います。

※(2)：文化・自然活動ゾーンの草刈りや清掃に関しては、行政や文化・自然活動ゾーン部会で開催の案内やボランティアの協力をお願いする等の支援を行います。

※(3)：ジョギングや散策路の更なる利用のための距離表示サイン計画の取り組みに関しては、回遊できる散策路部会との連携を図って行います。

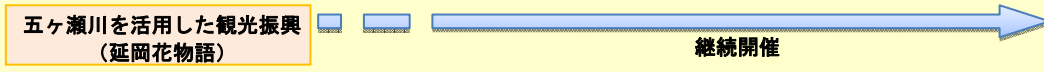
⑤ 引き続き検討すべき事項

- 子供たちが安全に遊べる水辺空間の確保を目的に、新たに日常的な水辺利用に関する親水プログラムの検討が必要です。

文化・自然活動ゾーン アクションプランの全体概要

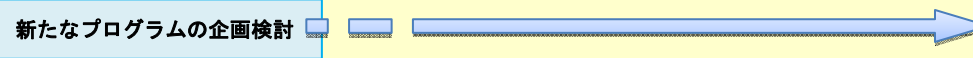
(1) 五ヶ瀬川を利用した観光振興（延岡花物語～このはなウォーク～）

- 「延岡花物語～このはなウォーク～」の五ヶ瀬川での継続的な開催に向け、会場配置等の見直しに合わせて、可能な範囲で整備内容の改善検討に取り組む。
- 河津桜の立ち枯れについて、管理者へ対策を要請する。



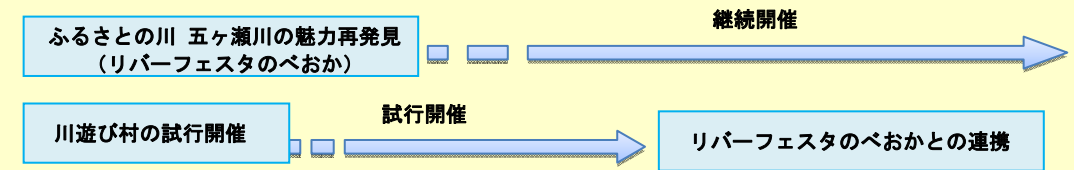
(3) 年間を通じた日常利用

- 堤防上や散策路を利用した散策・ジョギング利用について、現状の利用状況を継続するために必要となる取り組みとその対応を検討する。
- 整備された高水敷の広場や水辺周辺において、年間を通して利活用できるための新たな親水プログラムとして、水辺の環境学習やバードウォッチング等の実施企画を検討する。



(2) ふるさとの川、五ヶ瀬川の魅力再発見（リバーフェスタのべおか）

- 五ヶ瀬川を会場とした「リバーフェスタのべおか」の継続開催に必要な支援策とその対応を検討する。
- 「リバーフェスタのべおか」開催に合わせた草刈りや清掃などの維持管理活動の協力体制を検討・実施する。
- 五ヶ瀬川での親水活動促進のため、水質日本一の継続に向けた啓発活動を行う。
- 五ヶ瀬川の利用促進を図るための新たな企画として、「お父さん、お母さんのための川遊び村」を試行開催する。



《引き続き検討すべき事項》

(1) 五ヶ瀬川を利用した観光振興（延岡花物語～このはなウォーク～）

河川敷利用での風対策の必要性や、観光バスの駐車場配置等の課題や会場内の上・下水道施設に関する課題等が挙げられており、五ヶ瀬川で継続して開催するための課題を再整理し、その対応策の検討が必要です。

(2) ふるさとの川、五ヶ瀬川の魅力再発見（リバーフェスタのべおか）

五ヶ瀬川は渇水時には水量が少なく、水質も変化する傾向にあるため、水質日本一を継続する啓発活動に取り組むことと、渇水時の水の確保策について調整を図ることが必要です。

(3) 年間を通じた日常利用

子供たちが安全に遊べる水辺空間の確保を目的に、新たに日常的な水辺利用に関する親水プログラムの検討が必要である。



※整備の実施時期については、利活用計画の具体化と維持管理の協力見込みを勘案して変更することがあります。

文化・自然活動ゾーン アクションプラン

3.2.3 自然の恵み体験拠点

自然の恵み体験拠点では、「鮎やなや鮎やな食事棟」の施設や新たな憩いの広場の創出等を目的とした整備と連携を図りつつ、300年以上もの歴史を誇る「鮎やな」の風情を活かした観光利用や拠点施設・広場の年間を通した利用を図ります。

また、カヌーツーリングを中心としたまちなかツアーの定期的な開催と水辺安全教育等の実施を計画することにより、自然の恵みと怖さの体験を行える広場としての機能も加え、延岡を代表する観光拠点としての機能の向上と、新たな機能を加えた魅力ある河川空間の創出を目指します。

《自然の恵み体験拠点（大瀬大橋下流）のコンセプト》

- ・ 歴史ある延岡・五ヶ瀬川を外部にPRできる魅力・資源との連携により観光客を呼び込むことで、地域全体の活性化を図ります。
- ・ 流域の豊かな自然環境を活かし、自然の恵みを味わう拠点、自然体験の活動拠点としての活用を図ります。

《利活用の方向性》

- ・ 「鮎やな」を中心とした観光振興の取り組み
- ・ 年間を通した新たな日常利用
- ・ カヌーツーリングを中心としたまちなかツアー

※年間を通した日常利用の視点

- ・ 鮎やな食事棟の有効活用
- ・ 水辺安全教育や防災教育等の川の学校利用
- ・ 保育園の遠足、運動会
- ・ 広い敷地での植木市や軽トラ市、フリーマーケット利用
- ・ 橋脚を利用したボルダリング、グラウンドゴルフ、サッカー、フットサル等の広場の活用 等

《整備の方向性》

- ・ 多目的広場の確保、水際へのアクセス性の改善、鮎やな食事棟の常設化

多目的広場の確保
水際へのアクセス性の改善

鮎やな食事棟の常設化



《維持管理の方向性》


- ・ カヌーツアー、「鮎やな」のイベント開催時には、活動団体を主体とする他、ボランティアの対応も含め、草刈りや清掃活動の実施を図る。

【アクションプランの概要】

(1) 「鮎やな」を中心とした観光振興

- 「鮎やな食事棟」の年間利用計画の策定に向けて、関係者における調整の場を設ける。
- 「延岡水郷鮎やな」の設置時期に合わせた伝統文化ステージ、郷土芸能、河川敷の活用等、「鮎やな」を中心とした観光振興の取り組みについて、必要となる支援策とその対応について検討する。

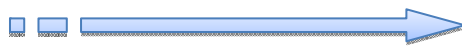
「鮎やな食事棟」の年間利用計画の調整
「延岡水郷鮎やな」の設置時期に合わせた各種の取り組みの支援



(2) 年間を通した日常利用

- 年間を通した賑わいを創出するための新たな河川空間の利用プログラムの検討を行うとともに、草刈りや清掃活動等の維持管理方策の協力体制を検討する。
- 春～夏の利用方策の一つとして「花」のイベント開催を企画・試行する。

年間を通した新たな利用方策の検討
「花」を活用した新たな観光振興イベントの企画・試行



(3) カヌーツーリングを中心としたまちなかツアー

(平成 26 年 4 月 27 日に大瀬川で「まちなかカヌーツーリング in 五ヶ瀬川」をモニターツアーとして試行開催)

- 自然の恵み体験拠点を食事や休憩場所としての利活用を検討し、モニターツアー開催の際に必要な仮設トイレの設置などの支援について行政との協力体制を検討する。
- 今後は、定期的な開催に向けた課題への対策検討や利用調整等の取り組みを行う。

まちなかカヌーツーリング in
五ヶ瀬川 (試行開催)

継続に向けて調整



(7)「鮎やな」を中心とした観光振興

① 背景

延岡の秋の風物詩になっている大瀬川に架かる「鮎やな」は300年以上もの歴史を有しており、毎年多くの観光客が訪れています。

また、延岡観光協会を中心に「伝統」をテーマとした300年の「鮎やな」の歴史を観光客に感じさせる様々な演出の取り組みが行われています。

「鮎やな」を中心とした観光振興の取り組みを継続していくものとし、併せて、「鮎やな食事棟」の通年利用計画の検討を進め、「鮎やな」を中心とした観光振興としての河川空間利用の充実を目指します。



② 検討の経緯(意見)

●秋の風物詩としての「鮎やな」は五ヶ瀬川での伝統的イベントであり、「鮎やな」設置時期は「鮎やな食事棟」の営業や神楽ステージ、囲炉裏席等の設置を図るなどの取り組みが延岡観光協会を中心に行われている。

●「鮎やな」設置期間に催されている「鮎やな」を中心とした各種の演出は継続していくことが必要であり、また、「鮎やな食事棟」の年間利用等の検討や調整を進め、河川空間の年間利用を図ることが必要です。

③ アクションプランの内容

●「鮎やな食事棟」の年間利用計画の策定

- 国土交通省及び延岡市は、「鮎やな食事棟」の年間利用計画の策定に向けて、関係機関の意見調整を図る場を作り、関係機関が一緒になって通年利用に向けたプログラムの検討等を進めていきます。
- 自然の恵み体験拠点部会は、通年利用プログラムの検討に協力を図ります。

●鮎やな食事棟、高水敷周辺の草刈り・清掃活動

- 自然の恵み体験拠点部会は、「鮎やな食事棟」周辺の草刈りや清掃等の活動について、鮎やなの設置時期に合わせて、一斉清掃活動の日等の設定を検討します。
- また、今後の年間利用計画の検討に併せて、草刈りや清掃等の定期的な実施日の設定等の検討を図ります。

④ 取り組みのスケジュール（当面の3カ年のスケジュール予定）

取り組み内容	主体	H26				H27				H28～							
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬				
鮎やかな食事棟の年間利用に向けた調整及びプログラムの検討	自然の恵み体験拠点部会 行政 延岡観光協会 ※(1)	-----▶															
鮎やかな設置に合わせた伝統文化ステージ等の継続 （例：郷土芸能、河川敷に囲炉裏、等）	延岡観光協会 ※(2)			■													■
		これまで同様に秋での開催を図ります															
会場周辺の除草・清掃	自然の恵み体験拠点部会 行政 ボランティア ※(3)		■														■
		鮎やかな実施前での活動を計画します															
鮎やかな食事棟の年間利用施設の整備	延岡市 延岡観光協会 ※(4)	-----▶															
鮎やかな周辺の高水敷 整正・多目的広場の 拡大等の整備	国土交通省 延岡市 ※(5)	-----▶															

- ※(1)：鮎やかな食事棟の年間利用に向けた調整は、行政及び延岡観光協会等を中心に関係機関の調整を検討します。また、年間利用に合わせた新たなプログラムの検討は、自然の恵み体験拠点部会を中心に新たな親水活動プログラムの検討を進めます。
- ※(2)：鮎やかな設置に合わせた伝統文化ステージ等の継続に関しては、延岡観光協会を中心に取り組むものとし、必要に応じて行政やボランティアの協力をお願いします。
- ※(3)：鮎やかな周辺の草刈りや清掃に関しては、行政や自然の恵み体験拠点部会で実施の案内やボランティアの協力をお願いする等の支援を行います。
- ※(4)：鮎やかな食事棟の整備については、延岡市・関係機関等により年間利用施設としての取り組みを進めていきます。
- ※(5)：鮎やかな周辺の高水敷整正や多目的広場の拡大等の整備については、国土交通省と延岡市で調整を図りながら進めていきます。

⑤ 引き続き検討すべき事項

- 鮎やかな食事棟の年間利用を検討し、利用者間の調整等を行うために、延岡市や観光協会等の関係機関の調整の場を設けることが必要です。

(8) 年間を通した日常利用

① 背景

自然の恵み体験拠点には、河川敷に広いスペースがあり、散策路は日常的な散策やジョギングに利用されています。また、秋には川面に「鮎やな」、堤防上に「鮎やな食事棟」が仮設され、各地から多くの観光客が訪れて賑わっています。

しかし、現状では秋の「鮎やな」設置期間以外は河川敷スペースの具体的な利用がなく、貴重な交流スペースの年間を通した利用が望まれているところです。このため、河川敷スペースを多目的広場として整備し、水際へのアクセスを改善するとともに、「鮎やな食事棟」の交流施設としての年間を通じた設置を図るための検討を行っています。

今後は、「鮎やな」のオフシーズンにもレクリエーション、自然に触れ合いながらの散策や「花」を題材にした新たな活動に利用できる等、日常利用の促進を目指します。

② 検討の経緯(意見)

●自然の恵み体験拠点には、河川敷に広いスペースがあり、散策路は日常的な散策やジョギングに利用されているほか、秋には川面に「鮎やな」、堤防上に「鮎やな食事棟」が仮設され、多くの観光客が訪れて賑わっている。

●現状では秋の「鮎やな」期間以外は河川敷スペースの具体的な利用がなく、貴重な交流スペースの年間を通した利用が望まれている。

●河川敷スペースを多目的広場として整備し、水際へのアクセスを改善するとともに、「鮎やな食事棟」の交流施設として、年間を通じての設置を図るための検討が進められている。

●今後は、「鮎やな」のオフシーズンにもレクリエーションや自然に触れ合いながらの散策、「花」を題材にした新たな活動に利用する等、年間を通じた日常利用の促進が望まれる。

③ アクションプランの内容

●高水敷の整正と多目的広場の整備

○国土交通省及び延岡市は、自然の恵み体験拠点ゾーンの年間利用に向けて、水際へのアクセスの改善や高水敷の整正、多目的広場の拡大等についての整備を進めていきます。

●新たな年間利用の検討

○自然の恵み体験拠点部会は、自然の恵み体験拠点ゾーンの年間を通しての新たな日常的な利用方策プログラムとして、広場での軽トラ市場、植木市、地域の催し（花火大会）等の企画検討を進め、行政や関係機関等との調整による実施方策を検討します。

また、併せて実施内容に基づく年間の草刈りや清掃活動等の実施方策の検討を図ります。

●花を題材にした新たなイベントの企画

○自然の恵み体験拠点部会は、自然の恵み体験拠点ゾーンの広い敷地を活用した新たなプログラムとして、植物園への協力要請や「延岡花物語～このはなウォーク～実行委員会」との連携を図りながら、「花」を題材にしたイベントの開催を企画します。

④ 取り組みスケジュール（当面3カ年のスケジュール予定）

取り組み内容	主体	H26				H27				H28～			
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
年間の利用方策の検討、	自然の恵み体験拠点部会			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
「花」を題材としたイベントの企画	自然の恵み体験拠点部会 植物園 「延岡花物語～このはなウォーク～」実行委員会 行政 ※(1)			●	●	●	●	●	●				
自然の恵み体験拠点周辺の草刈り・清掃	自然の恵み体験拠点部会 行政 ボランティア ※(2)		●				●					●	
鮎やな周辺の高水敷 整正・多目的広場の 拡大等の整備	国土交通省 延岡市 ※(3)			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

※(1)：「花」を題材としたイベントの企画については、自然の恵み体験拠点部会、植物園や「延岡花物語～このはなウォーク～」実行委員会、行政等との連携を図りながら、実施に向けた企画検討に取り組み、H28年2月での試行を目指します。

※(2)：自然の恵み体験拠点周辺の草刈りや清掃に関しては、行政や自然の恵み体験拠点部会で実施の案内やボランティアの協力をお願いする等の取り組みを行います。

※(3)：自然の恵み体験拠点周辺の高水敷整正や多目的広場の拡大等の整備については、国土交通省と延岡市の調整を図りながら進めていきます。

⑤ 引き続き検討すべき事項

- 「花」を題材にした新たなイベント企画については、植物園への協力要請や「延岡花物語～このはなウォーク～」実行委員会」との連携を図る等、実施に向けた具体策の検討が必要です。

(9) カヌーツーリングを中心としたまちなかツアー

① 背景

大瀬川は水面利用に適した環境と素晴らしい景観を持ちながらもカヌーなどの水面利用はこれまであまり、盛んではありませんでした。

大瀬川の水面利用促進を図るために、平成 26 年 4 月に「まちなかカヌーツーリング in 五ヶ瀬川」と称したモニターツアーを試行開催し、自然の恵み体験拠点を食事や休憩の場所として利用しました。



今後は試行で得られた課題への対応を図り、利用調整を図りながら、定期的なカヌーツーリングの開催を目指します。

② 検討の経緯(意見)

●大瀬川では水面利用に適した環境と素晴らしい景観を有しながら、これまでカヌー活動等については、大瀬川での伝統的な鮎漁との時期や場所の調整が必要であり、あまり取り組まれてはいなかった。

●関係者間の調整により、大瀬川での「まちなかカヌーツーリング in 五ヶ瀬川」を 4 月に試行開催し、好評価が得られた。

●今後は、定期的なカヌーツーリング開催を目的に、関係者間での調整が必要。

≪【参考】「まちなかカヌーツーリング in 五ヶ瀬川」の様子≫ (平成 26 年 4 月 27 日開催)



参加者みんなで大瀬川を川くだり
(奥に見えるのが大瀬大橋)



お昼は日本一の宮崎牛BBQで舌鼓！
(自然の恵み体験拠点にて)

③ アクションプランの内容

●カヌーツアーの試行開催の継続

○自然の恵み体験拠点部会は、今後も NPO 法人ひむか感動体験ワールド・NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワーク等と協議を図りながら、平成 26 年 4 月に試行開催したモニターツアーでわかった課題や必要な支援策の抽出を行い、併せてその対応を検討し、行政や関係団体等との協議を進め、当面の目標として毎年 4 月の継続開催に取り組みます。

●定期的な開催への取り組み

○自然の恵み体験拠点部会は、毎年 4 月の開催に加えて、定期的なカヌーツーリングの開催に向け、行政や漁協等関係団体との調整を図ります。

④ 取り組みスケジュール（当面 3 カ年のスケジュール予定）

取り組み内容	主体	H26				H27				H28～								
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬					
モニターツアーの試行と今後の運営	自然の恵み体験拠点部会 NPO 法人ひむか感動体験ワールド NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワーク 行政 ※(1)					■				■								
定期的な開催に向けた関係団体間の調整	自然の恵み体験拠点部会 NPO 法人ひむか感動体験ワールド NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワーク 漁協等関係者 行政 ※(2)																	
カヌー発着等親水施設の改善整備	国土交通省 延岡市 ※(3)				■													

※(1)：モニターツアーの試行については、当面は調整済である 4 月の開催を継続していきます。定期的な開催の調整が済んだ後のカヌーツアーの運営は、NPO 法人ひむか感動体験ワールド、NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワークの主体で行うものとし、実施の際のトイレの仮設等の補助作業については、自然の恵み体験拠点部会を中心に行政との協力体制を検討します。

※(2)：定期的なカヌーツアーの実施に向けて、自然の恵み体験拠点部会、NPO 法人ひむか感動体験ワールド、NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワーク、漁協等関係者に行政を加えて、調整を図ることに取り組みます。

※(3)：自然の恵み体験拠点周辺の高水敷整正や多目的広場の拡大等の整備については、国土交通省と延岡市で調整を図りながら進めていきます。

⑤ 引き続き検討すべき事項

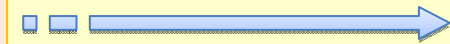
- 「まちなかカヌーツーリング in 五ヶ瀬川」の4月での試行開催を継続していくとともに、定期的な開催に向けて関係団体との調整が必要です。

自然の恵み体験拠点 アクションプランの全体概要

(1) 「鮎やな」を中心とした観光振興

- 「鮎やな食事棟」の年間利用計画の策定に向けて、関係者における調整の場を設ける。
- 「延岡水郷鮎やな」の設置時期に合わせた伝統文化ステージ、郷土芸能、河川敷の活用等、「鮎やな」を中心とした観光振興の取り組みについて、必要となる支援策とその対応について検討する。

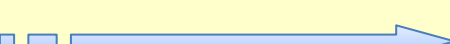
「鮎やな食事棟」の年間利用計画の調整
「延岡水郷鮎やな」の設置時期に合わせた各種の取り組みの支援



(2) 年間を通した日常利用

- 年間を通した賑わいを創出するための新たな河川空間の利用プログラムの検討を行うとともに、草刈りや除草活動等の維持管理方策の協力体制を検討する。
- 春～夏の利用方策の一つとして「花」のイベント開催を企画・試行する。

年間を通した新たな利用方策の検討
「花」を活用した新たな観光振興イベントの企画・試行



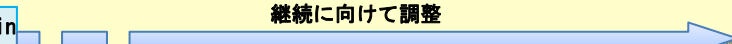
(3) カヌーツーリングを中心としたまちなかツアー

(平成 26 年 4 月 27 日に大瀬川で「まちなかカヌーツーリング in 五ヶ瀬川」をモニターツアーとして試行開催)

- 自然の恵み体験拠点を食事や休憩場所としての利活用を検討し、モニターツアー開催の際に必要な仮設トイレ設置などの支援について行政との協力体制を検討する。
- 今後は、定期的な開催に向けた課題への対策検討や利用調整等の取り組みを行う

まちなかカヌーツーリング in
五ヶ瀬川 (試行開催)

継続に向けて調整



《引き続き検討すべき事項》

(1) 「鮎やな」を中心とした観光振興

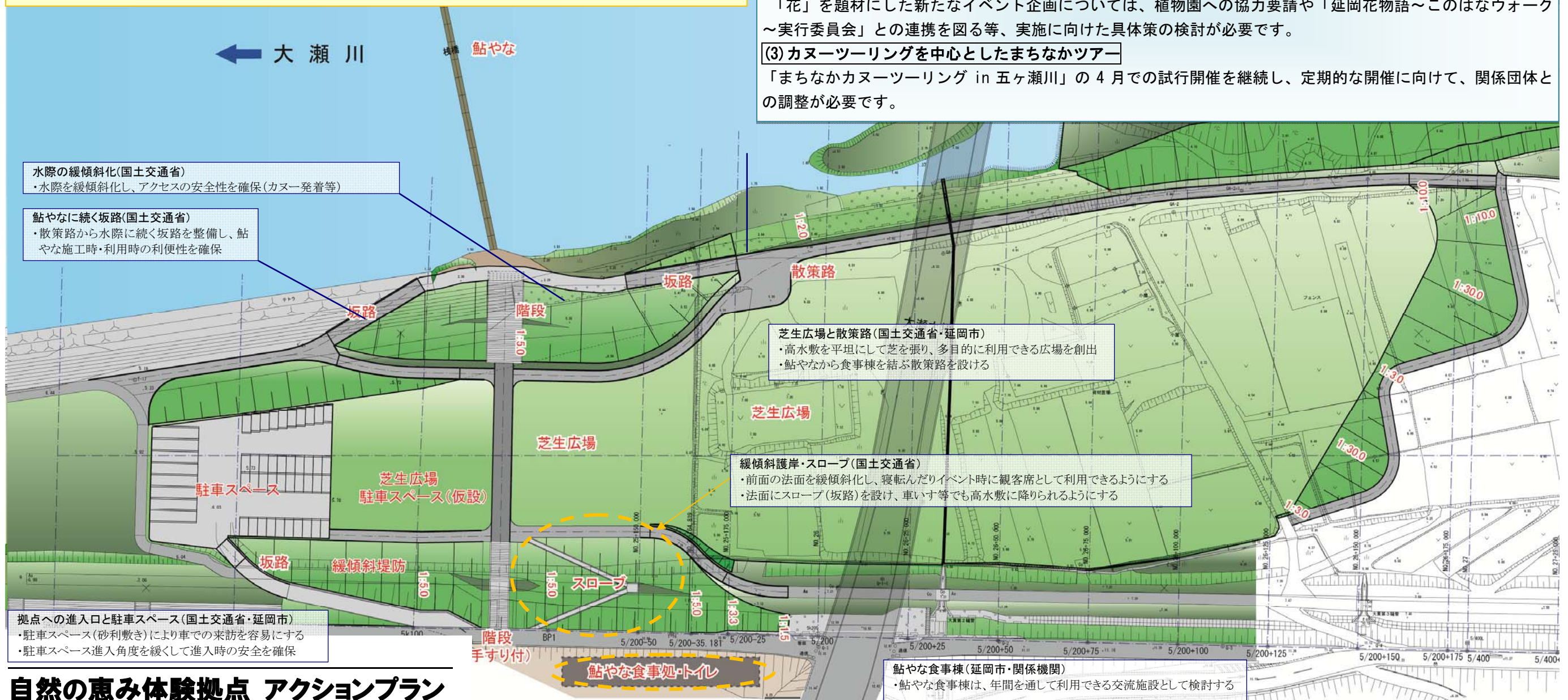
鮎やな食事棟の年間利用を検討し、利用者間の調整等を行うために、延岡市や観光協会等の関係機関の調整の場を設けることが必要です。

(2) 年間を通した日常利用

「花」を題材にした新たなイベント企画については、植物園への協力要請や「延岡花物語～このはなウォーク～実行委員会」との連携を図る等、実施に向けた具体策の検討が必要です。

(3) カヌーツーリングを中心としたまちなかツアー

「まちなかカヌーツーリング in 五ヶ瀬川」の 4 月での試行開催を継続し、定期的な開催に向けて、関係団体との調整が必要です。



自然の恵み体験拠点 アクションプラン

4. アクションプランの実現に向けて

五ヶ瀬川の「かわまちづくり計画」は、延岡市、関係機関、地域住民等との密接な連携を図り、より地域に役立つような五ヶ瀬川らしさを活かしたまちづくりを推進していくことを目的としたものです。

今後も、このアクションプランに基づき、取り組みの実践と評価を図りながら、五ヶ瀬川かわまちづくりの目標である「水郷のべおか」の歴史・文化を継承し、地域住民の河川利用の増加（楽しみの増加）を促進することを目指していきます。

特に、拠点の整備を行う際には、具体的な工事内容について関係機関、地域住民の方等への説明を行いながら進めていくものとし、延岡が誇れる川づくりをみなさんと一緒に考えていきます。

平成 26 年 7 月 30 日：大貫水辺プロジェクトの開催



関係機関・地域住民の方等に対して、「五ヶ瀬川かわまちづくり計画」・「自然の恵み体験拠点部会」の協議に基づく大貫地区周辺の整備内容の説明を行いました。

平成 26 年 8 月 6 日：畳堤プロジェクトの開催



関係機関・地域住民の方等に対して、「五ヶ瀬川かわまちづくり計画」・「回遊できる散策路部会」の協議に基づく畳堤周辺の整備内容の説明を行いました。

天下一五ヶ瀬かわまち創ろう会委員名簿

平成26年9月時 五十音順 敬称略

所属・役職	氏名	備考
喜の会・緑清園 代表（樹木医）	今井 敏喜	
九州保健福祉大学 学生	片伯部 あい	
延岡走ろう会 会長	長渡 靖夫	
延岡走ろう会 理事長	川口 洋一	
NPO 法人 アスリートタウンのべおか 理事長	河野 孝夫	
延岡五ヶ瀬川漁業協同組合 理事	工藤 平寿郎	
リバーフェスタのべおか実行委員会 実行委員長	寺田 陽介	
天下一ひむか桜菜の花まつり実行委員会 実行委員長	佐伯 卓信	
五ヶ瀬川の豊堤を守る会 副会長	芝 弘光	
市民協働まちづくりセンター コーディネーター	田中 雄一郎	
延岡歩こう会	中村 正	
延岡市区長連絡協議会 事務局長	廣瀬 武男	
一般社団法人延岡観光協会 事務局長	古木 聖三	
延岡アースデイ実行委員会 実行委員長	松田 庄司	
リレーマラソン大会実行委員会 事務局	三浦 昌行	
五ヶ瀬川イカダ下り大会実行委員会 実行委員長	島盛 祐介	
社団法人宮崎県建築士会延岡支部 支部長	矢野 公一	
NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワーク 職員	山田 大志	
宮崎県延岡土木事務所 河川砂防課 河川担当副主幹	梶野 哲哉	
延岡市 商工観光部 観光戦略課長	熊谷 俊一	
延岡市 教育委員会 総務課長	上田 眞二	
延岡市 都市建設部 都市計画課長	田中 文靖	
延岡市 健康福祉部 健康増進課長	中村 誠	
国土交通省 延岡河川国道事務所 調査第一課 専門員	田上 幸喜	

